

2012 年 9 月 期

スルガ銀行

インベスターズ・プレゼンテーション

Presentation to investors on fiscal year ended September 30, 2012

Meeting the Challenge of New Banking



SURUGA bank

「大きな壁」に直面するグローバル資本主義世界

西洋中心のグローバル資本主義における「三つの根源的欠陥」

グローバル資本の国境を越えた 移動が世界経済を不安定化

急激かつ巨額の資本流入出がバブル発生と
その崩壊を生み出し、絶えざる金融危機を生起

地球環境の汚染・破壊を 加速

「資本の自己増殖」という目的達成のためには
「自然の搾取」は避けて通れない

「中流階層」の消滅による 社会の二極化現象が発生

グローバル競争の結果、
富の偏在・所得格差の拡大が発生

新しい価値観に基づく グローバル化の構築が急務

これまで日本が大切にしてきた価値観が今後の経済運営・企業経営には不可欠

自然との共生

人間世界との共栄共存

対人関係を重視

和を以って貴しとなす

長期的な信頼関係

共栄共存という社会的視線

社会的価値の創造

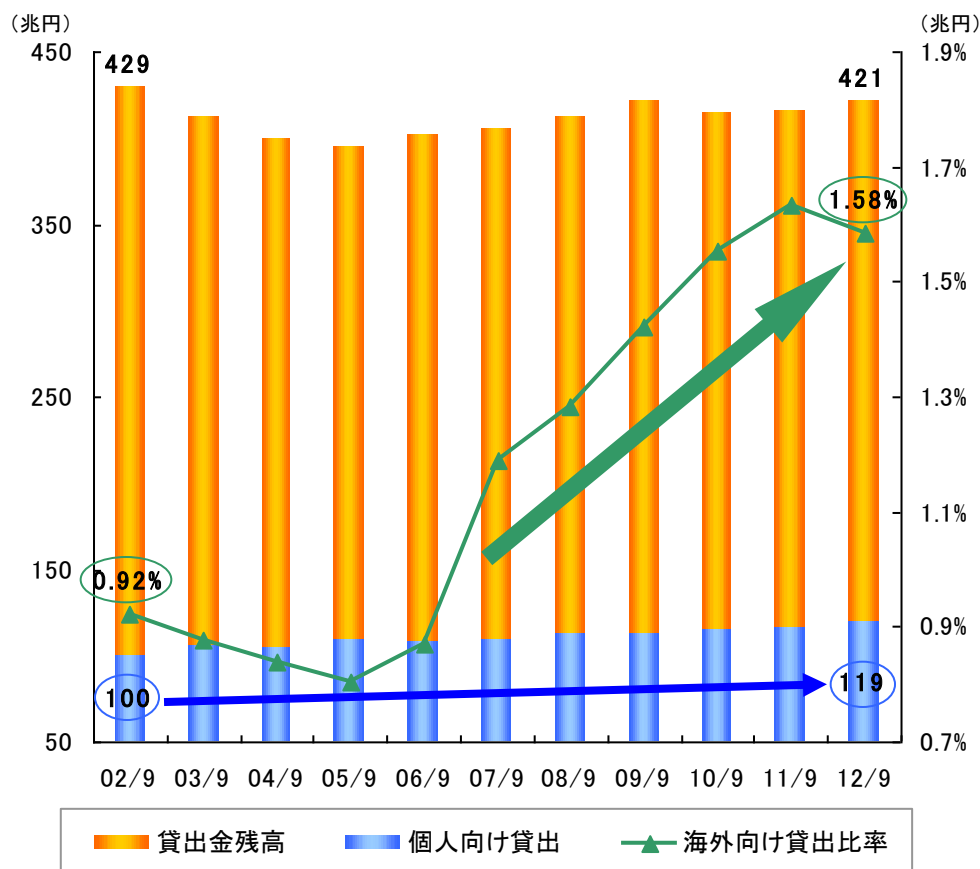
社会の一員である自覚

日本的価値観をベースにした新たなビジネスモデルを構築できるかどうか
これからのグローバル資本主義世界で生き残るカギに

出所：中谷巖

■ 邦銀を取り巻く環境認識

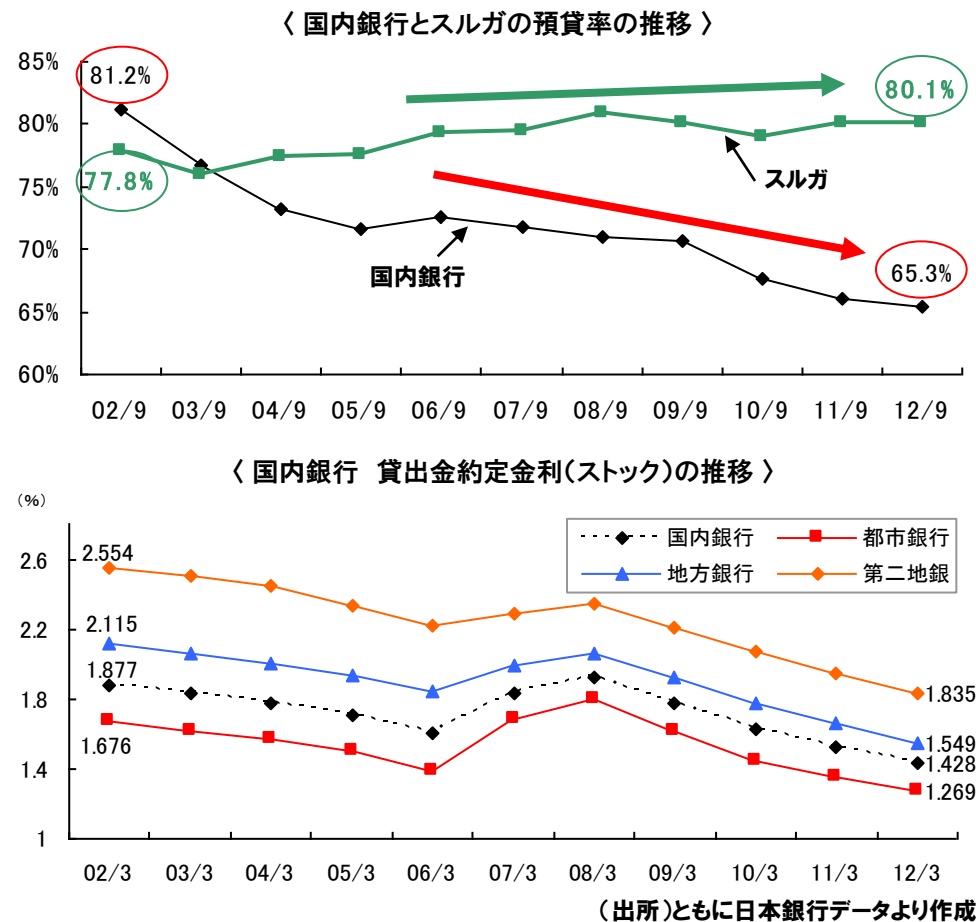
国内銀行貸出金残高と主要行海外向け貸出残高の推移



(出所)日本銀行データより作成

**個人向けと海外向け貸出が
今後、資金需要が期待できる成長ドライバー**

国内銀行の預貸率と貸出金約定金利の推移

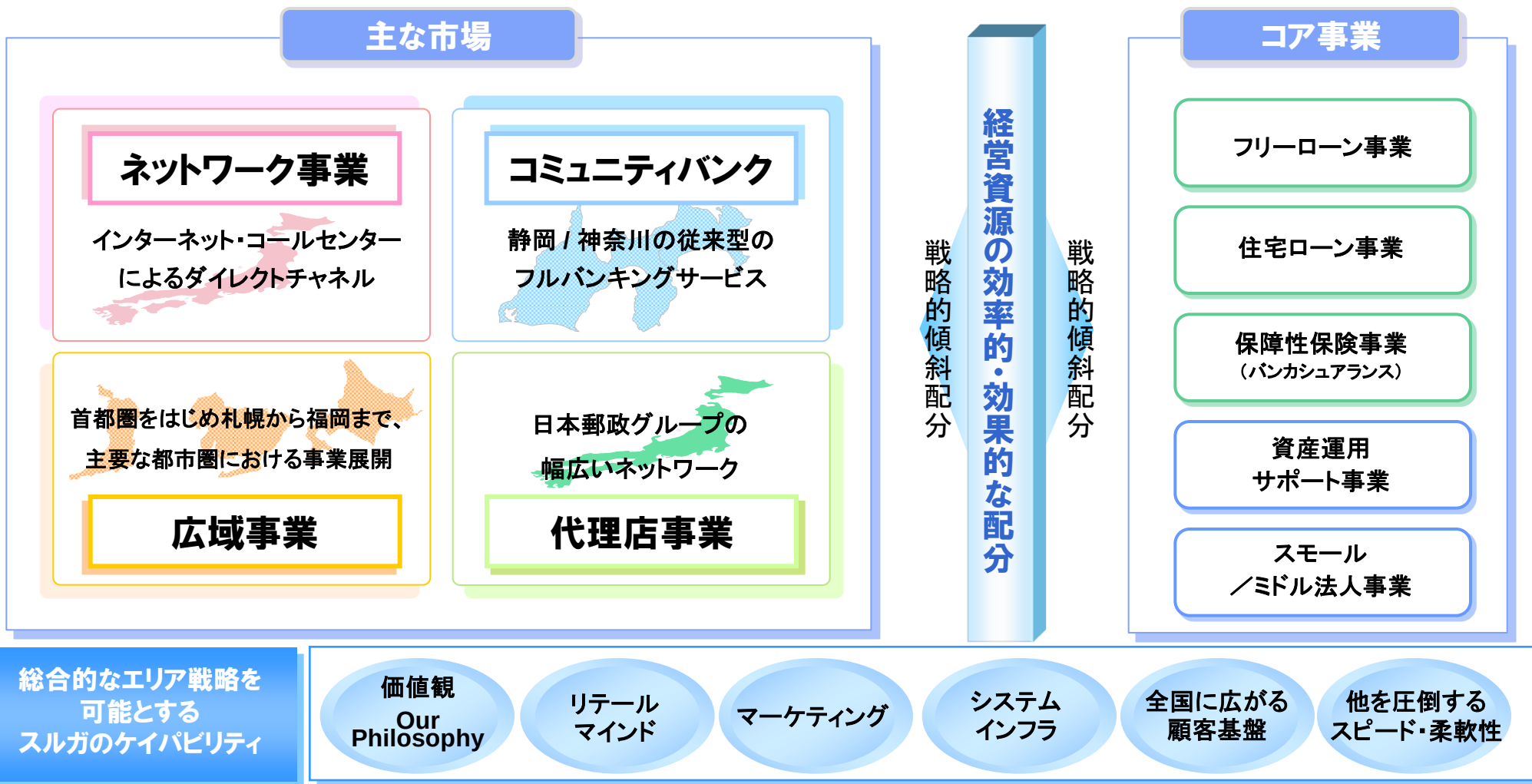


**預貸率は低下に歯止めが掛からず
貸出金については収益性確保が今後の課題**

第4次経営計画グランドデザイン

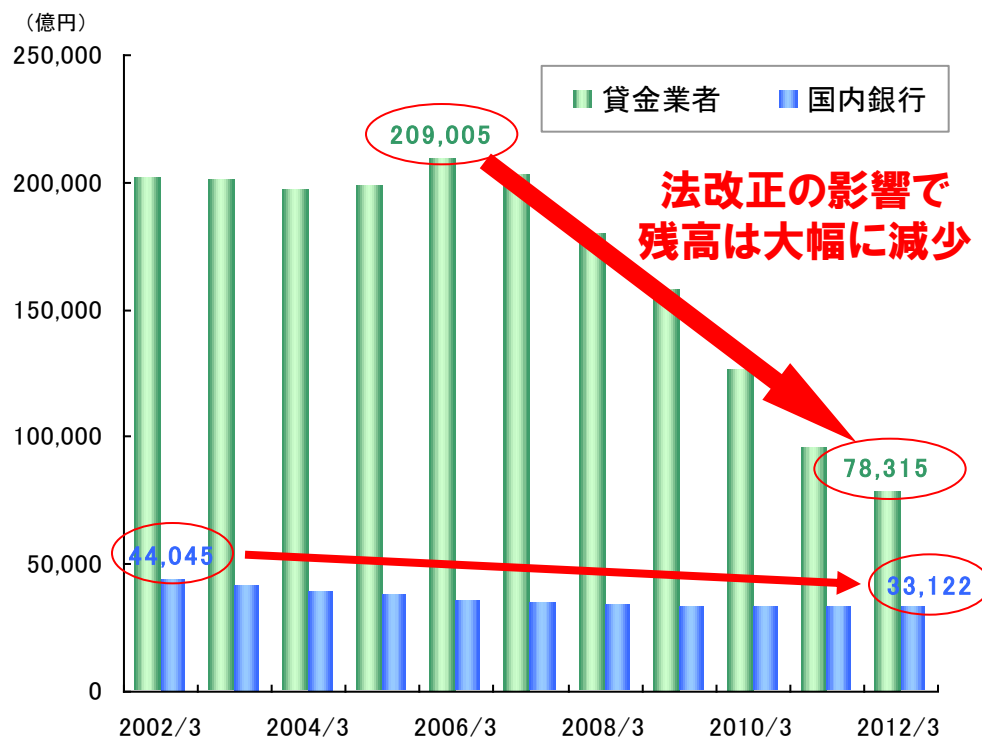
市場の特性を活かし、顧客軸を付加した価値創造実現へ

—スルガのリテール特化戦略により培ったノウハウを最大限に発揮—



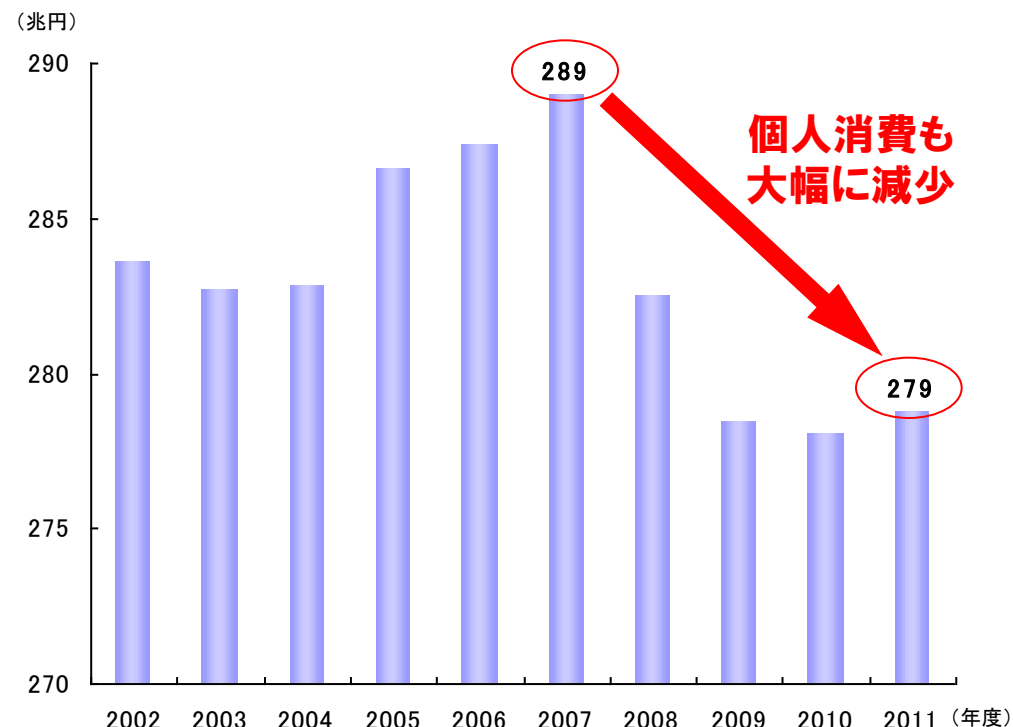
■ フリーローン市場の現状

〈 貸金業者の消費者向け貸付残高及び国内銀行カードローン等残高の推移 〉



(出所)金融庁および日本銀行データより作成

〈 個人消費の推移(名目GDP) 〉

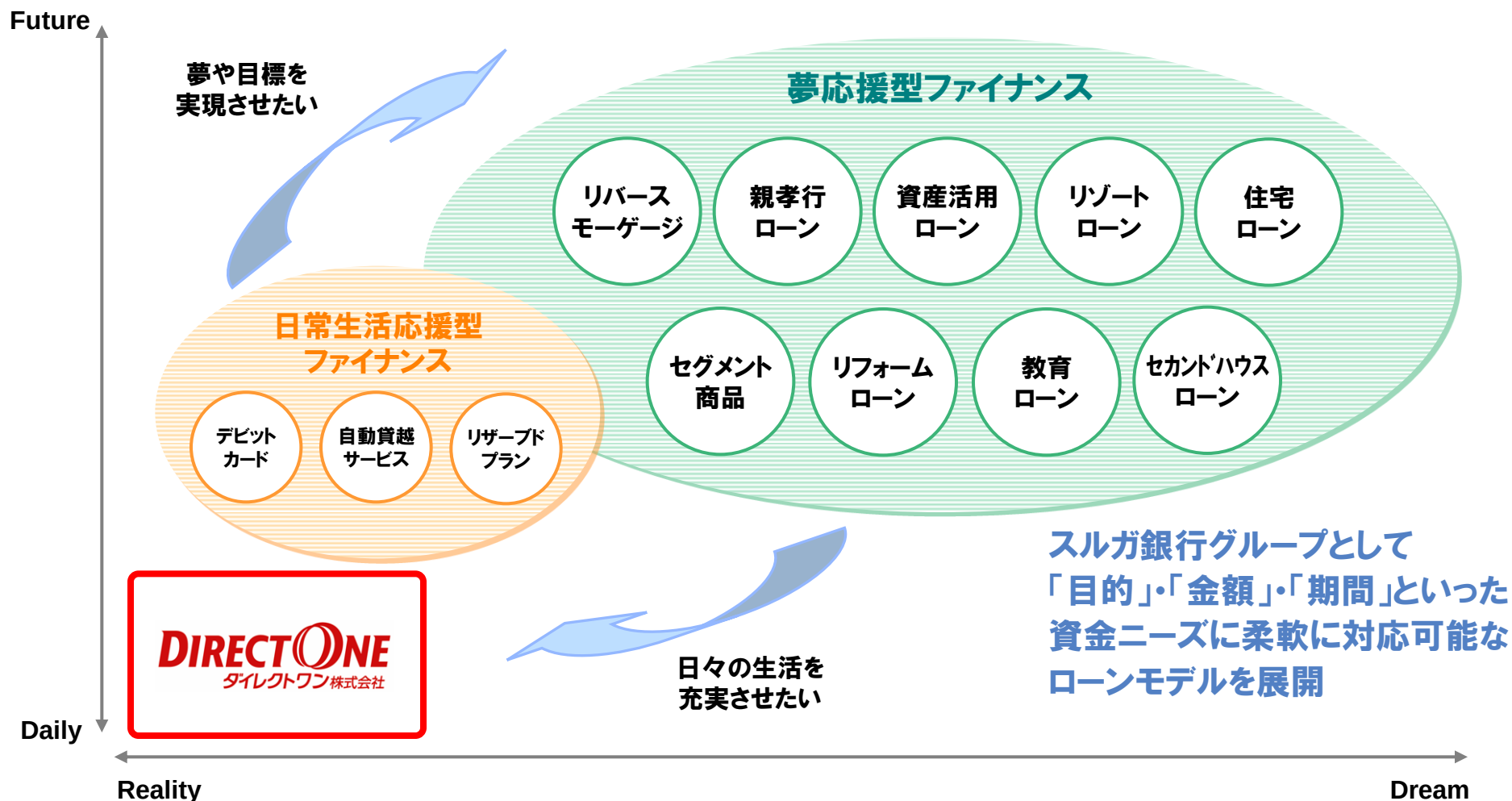


(出所)内閣府データより作成

健全な消費者の消費活動を金融面で支えるプレイヤー不在の現況は、
国民経済の成長の大きな足かせとなっている一方で、
大きなビジネスチャンスの可能性も！

■ スルガ銀行グループの個人ローンビジネス

日常生活を豊かにするためのローンから、将来の夢実現を応援するためのローンまで
スルガ銀行グループはあらゆるライフスタイル・ライフステージに対応可能

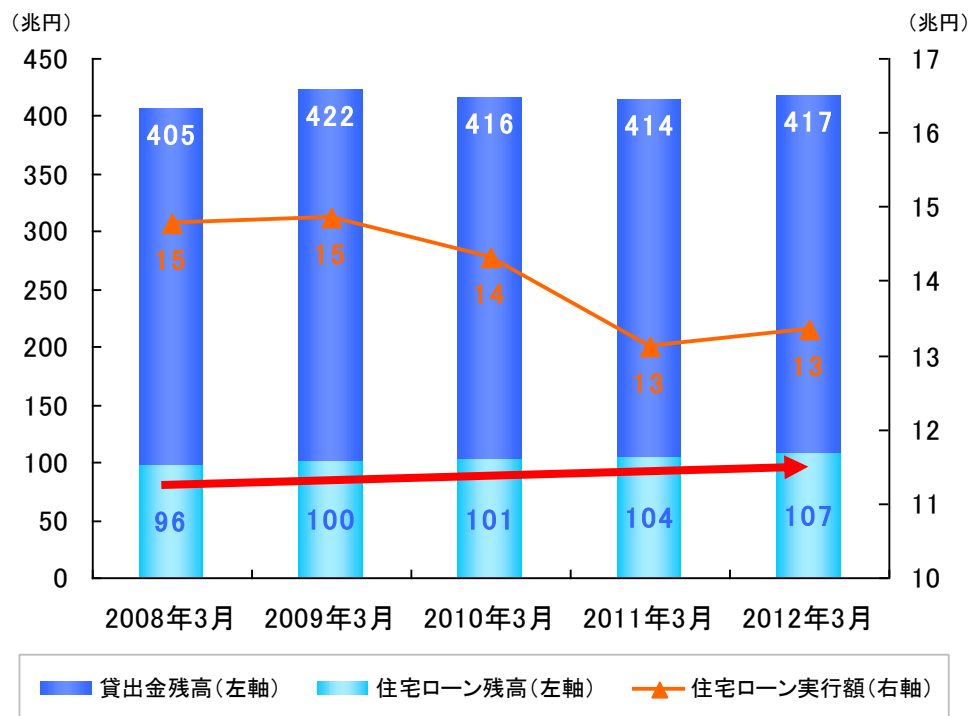


■ 他社とは一線を画したスルガ独自のフリーローンビジネス

	スルガ	一般的な銀行	ノンバンク
法規制の影響	改正貸金業法の影響は限定的	改正貸金業法の影響は限定的	改正貸金業法の影響大
顧客とのコミュニケーション	「顧客軸」によるコミュニケーション	「商品軸」によるコミュニケーション	コミュニケーション方法に制約
フリーローンノウハウ	自社でノウハウを蓄積	自社へのノウハウ蓄積は不十分	審査・途上・回収ノウハウに強み
顧客情報の蓄積・活用	顧客属性情報＋フリーローン情報	顧客属性情報に依存	フリーローン情報に依存

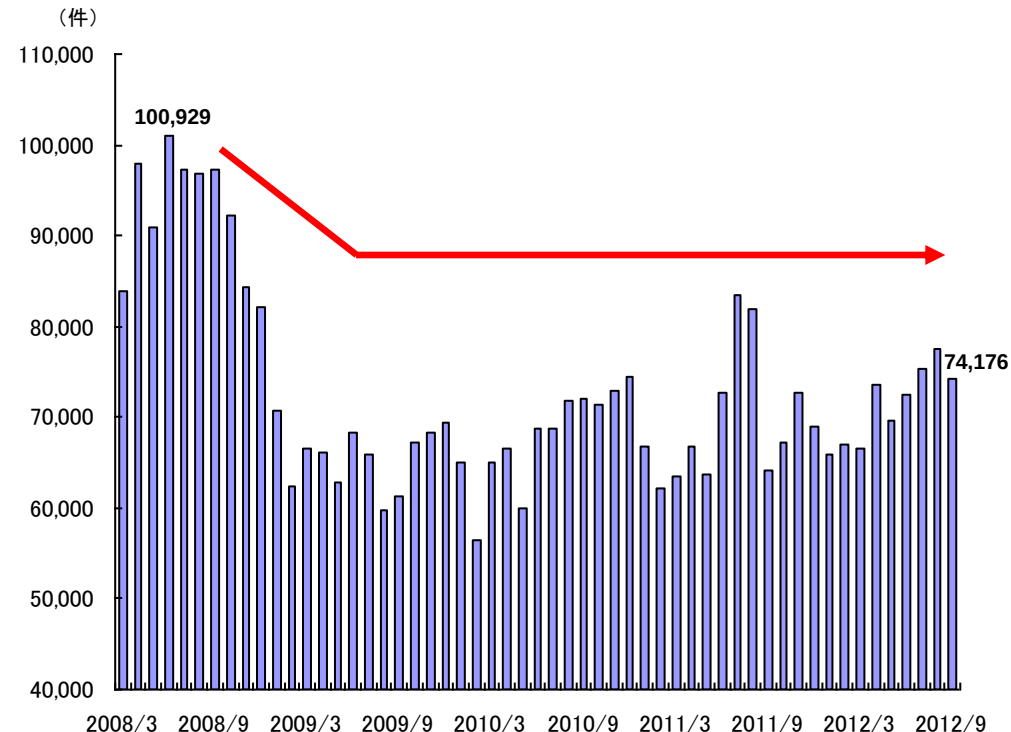
■ 住宅ローン市場を取り巻く環境

〈 国内銀行の貸出金／住宅ローン残高・住宅ローン実行額推移 〉



(出所) 日本銀行、住宅金融支援機構データより作成

〈 新設住宅着工件数の推移 〉



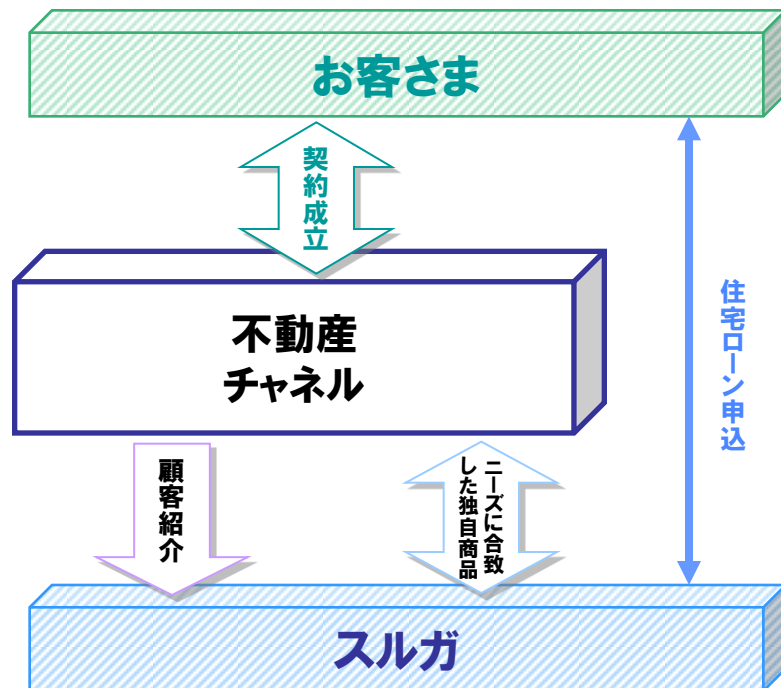
(出所) 国土交通省データより作成

各行が注力している「住宅ローン」ビジネスは
縮小していく市場を金利競争で奪い合う「勝者なき体力勝負」の世界へ突入

■ スルガの住宅ローンビジネス

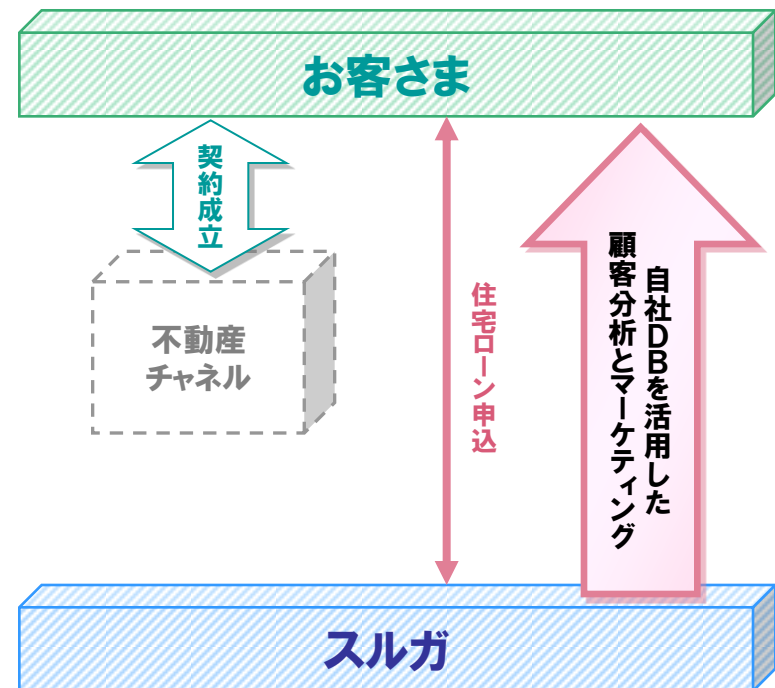
スルガの住宅ローンビジネスは時代の変化にあわせて進化し続ける

〈「商品軸」時代の住宅ローンビジネス〉



『不動産チャネル』を起点とした「B to B to C」モデル

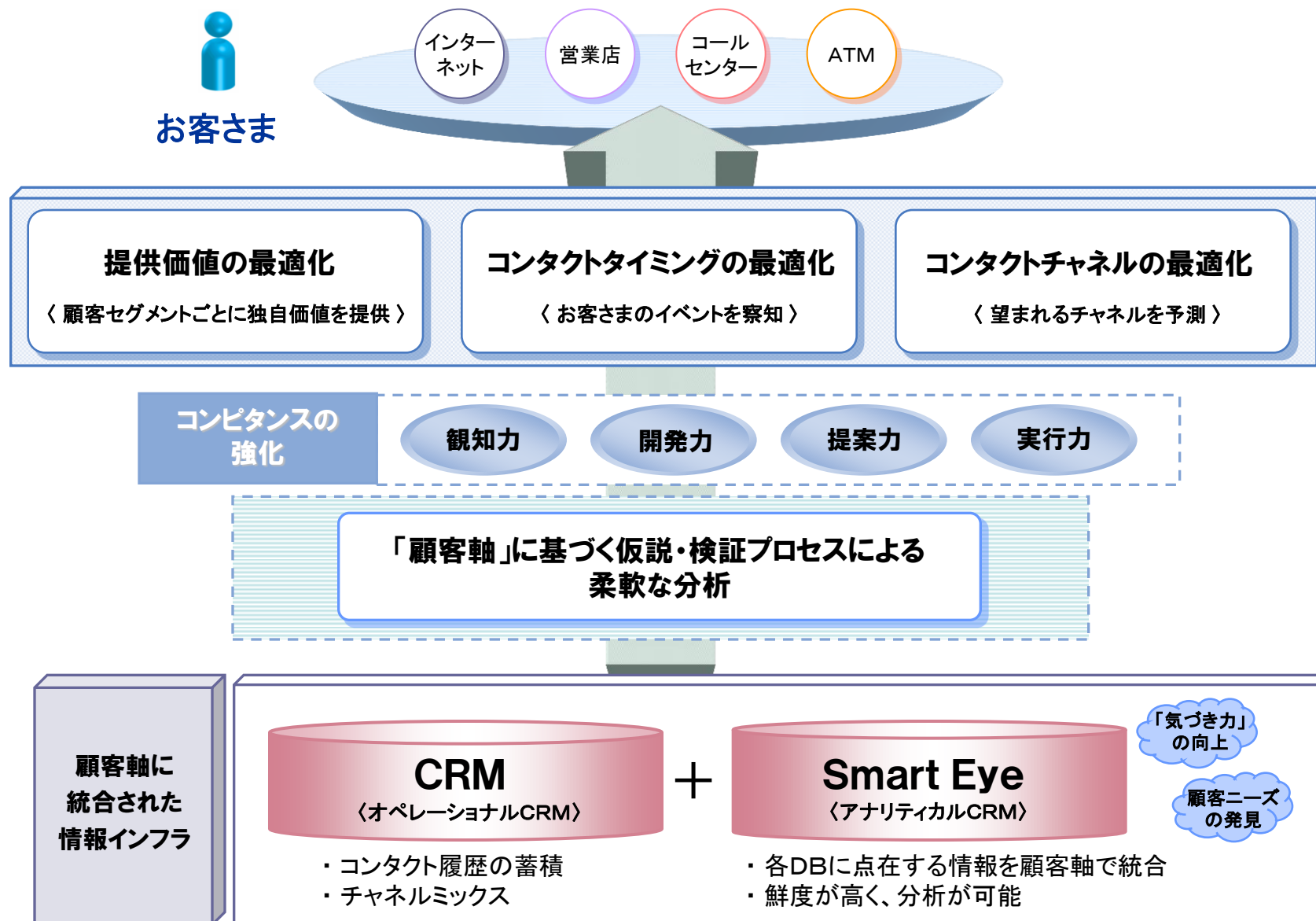
〈「顧客軸」時代の住宅ローンビジネス〉



『自社DB』と『SmartEye』を活用した「B to C」モデル

スルガの住宅ローンビジネスはチャネル営業に依存しない
金利競争とは一線を画した「顧客軸」を付加したビジネスモデルを展開

■ スルガ独自のマーケティング

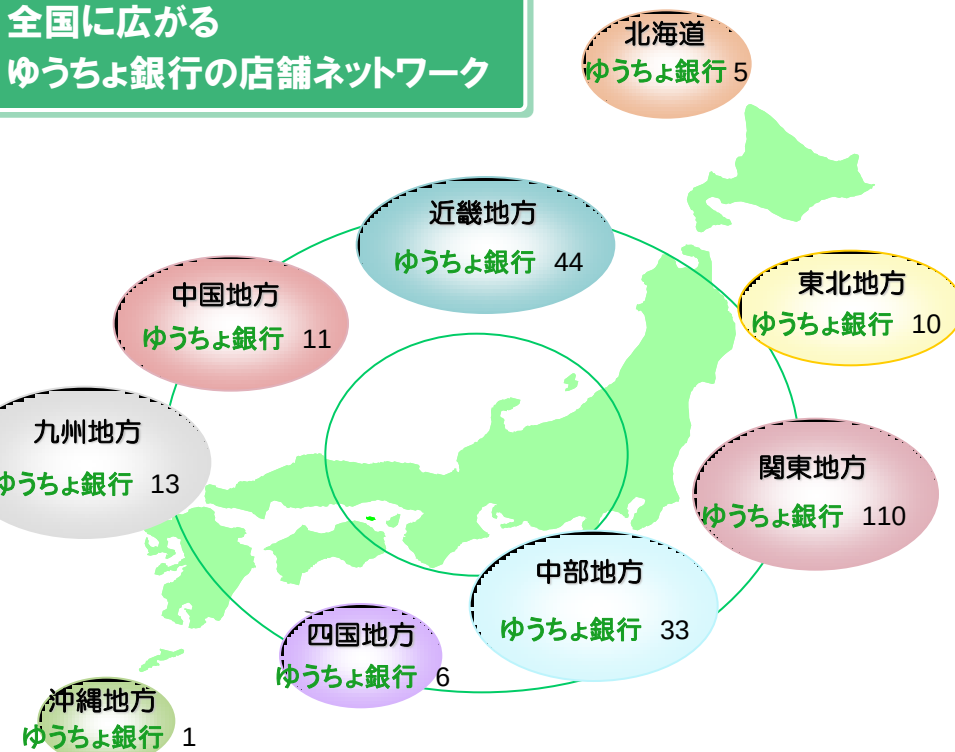


■ ゆうちょ銀行との業務提携

日本全国に広がるゆうちょネットワークを活用したビジネス展開

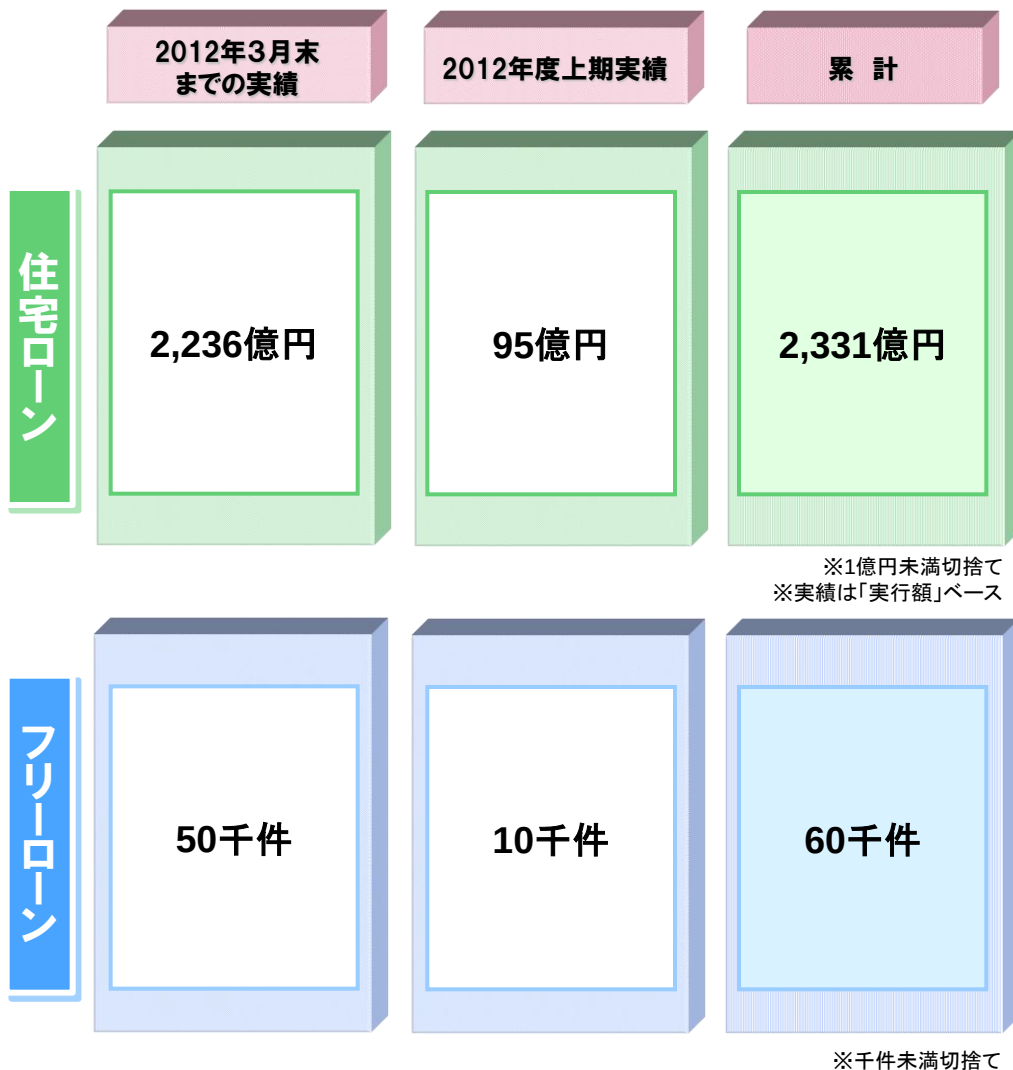
ゆうちょ銀行全233 店舗で
目的別ローンおよびカードローンのお申込みが可能に

全国に広がる
ゆうちょ銀行の店舗ネットワーク



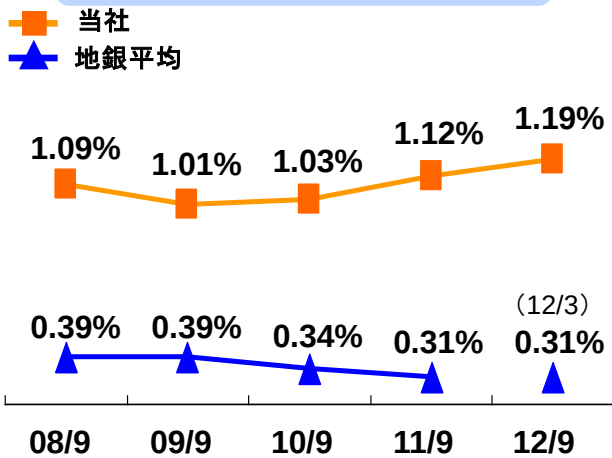
「お客さま」のニーズを大切に考えたローンを
より多くのお客さまにご提供

提携開始から現在までの実績

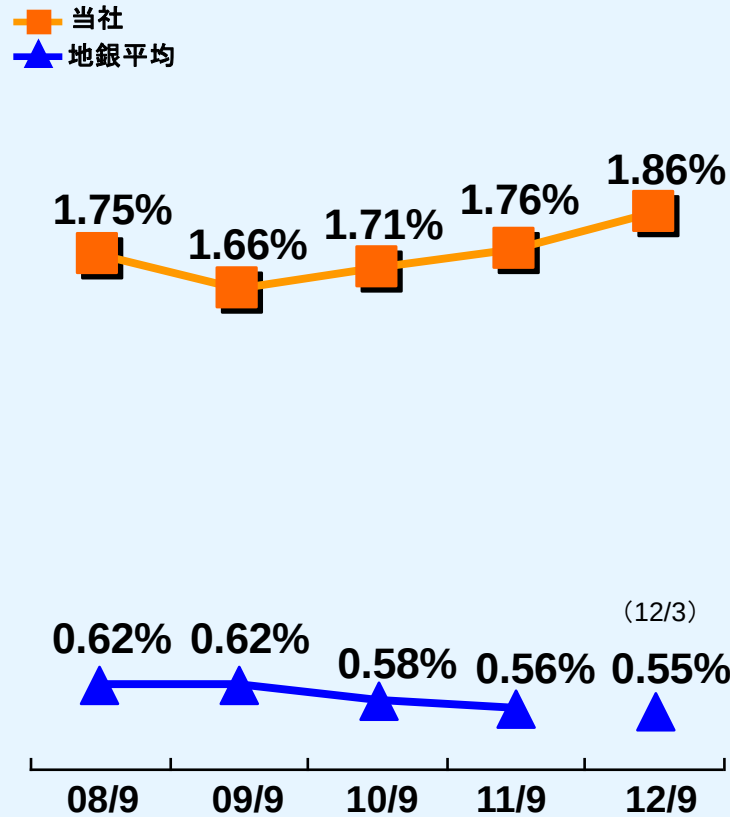


■ 利ざや等の状況 (全体)

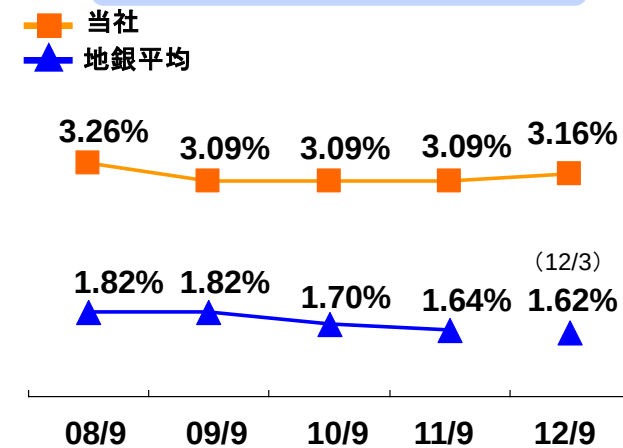
総資金利ざや



預貸金利ざや

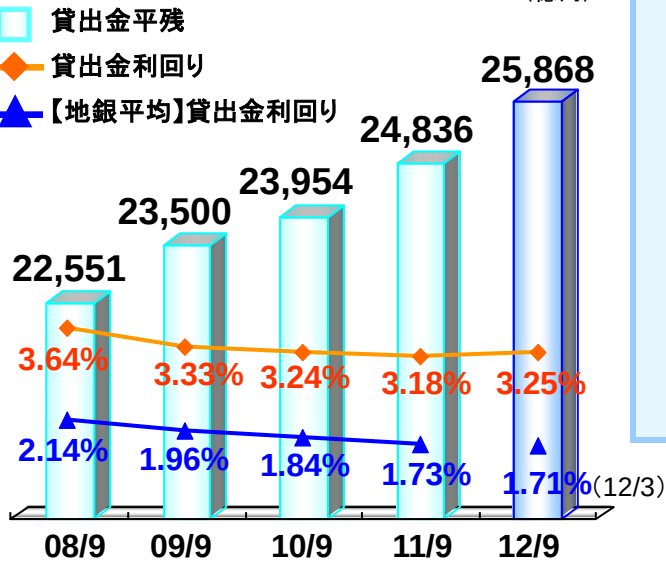


預貸金粗利ざや



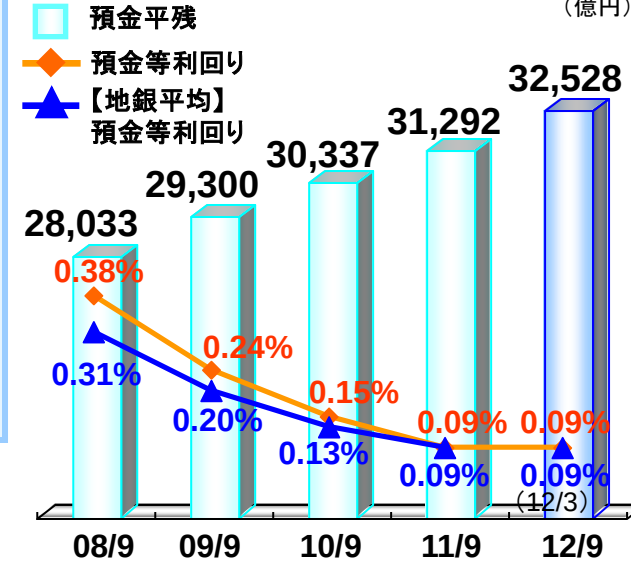
貸出金利回りと貸出金平残

(億円)



預金等利回りと預金平残

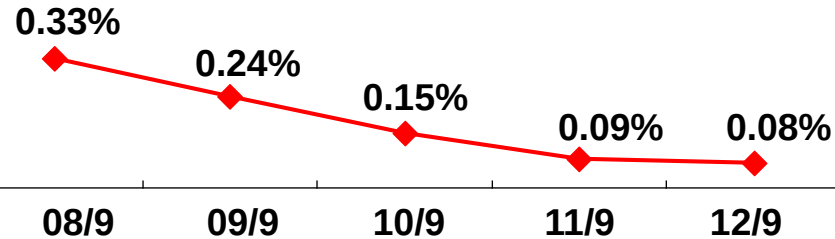
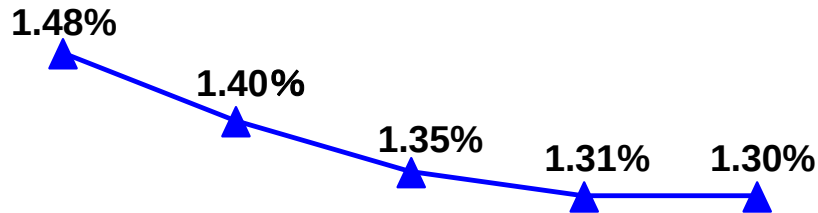
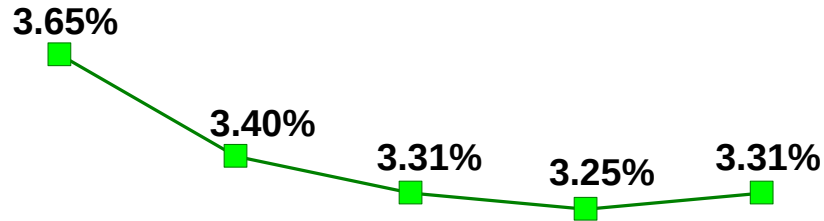
(億円)



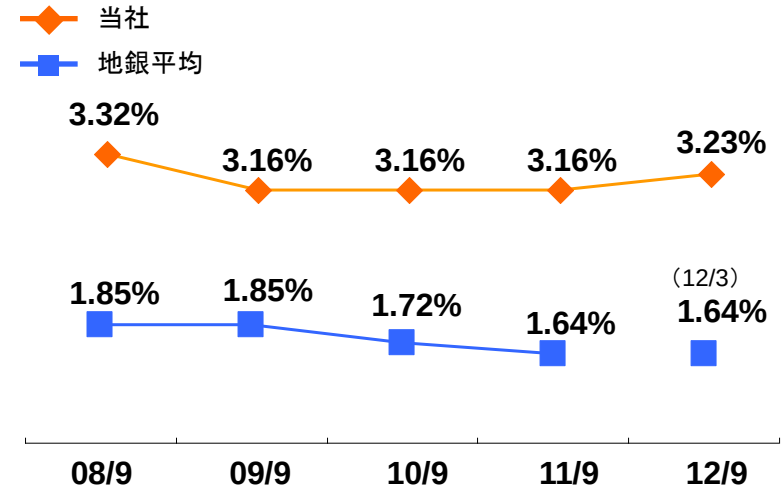
■ 利ざや等の状況(国内)

利回り・経費率の状況

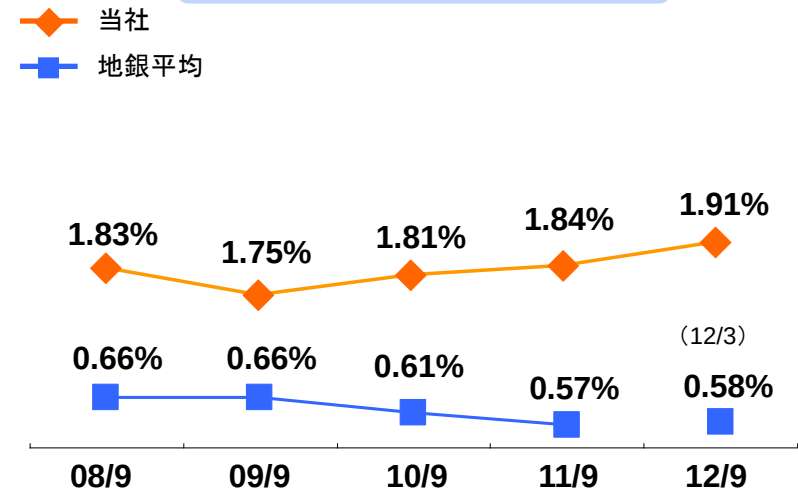
■ 貸出金利回り ▲ 経費率 ◆ 預金等利回り



預貸金粗利ざや

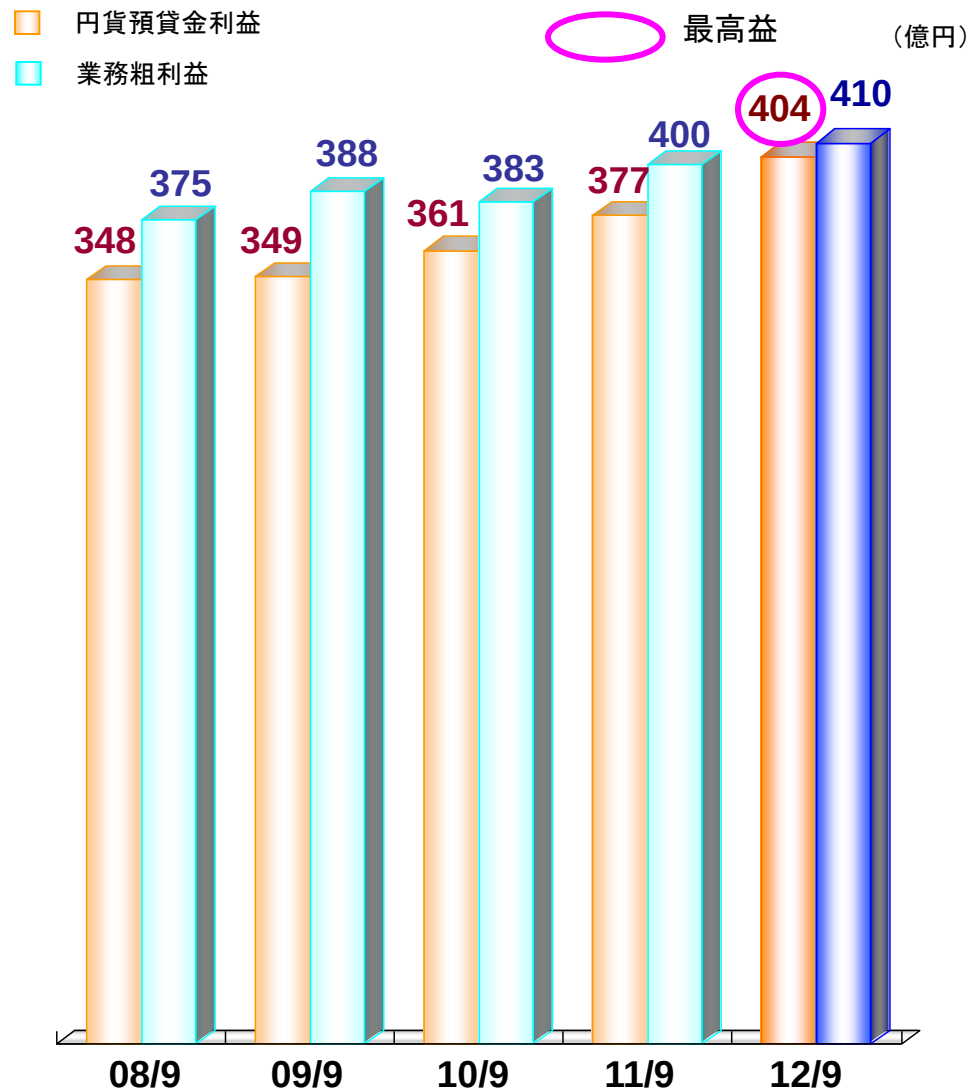


預貸金利ざや

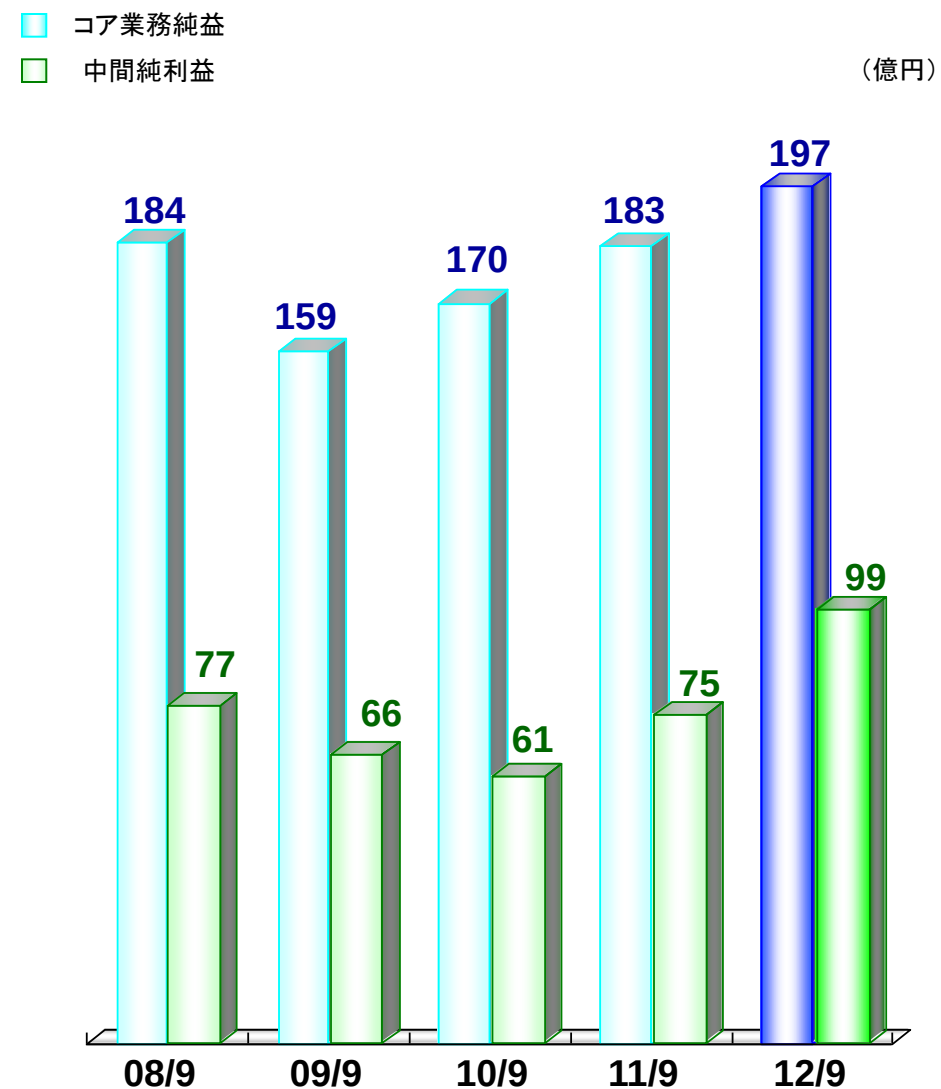


利益の推移

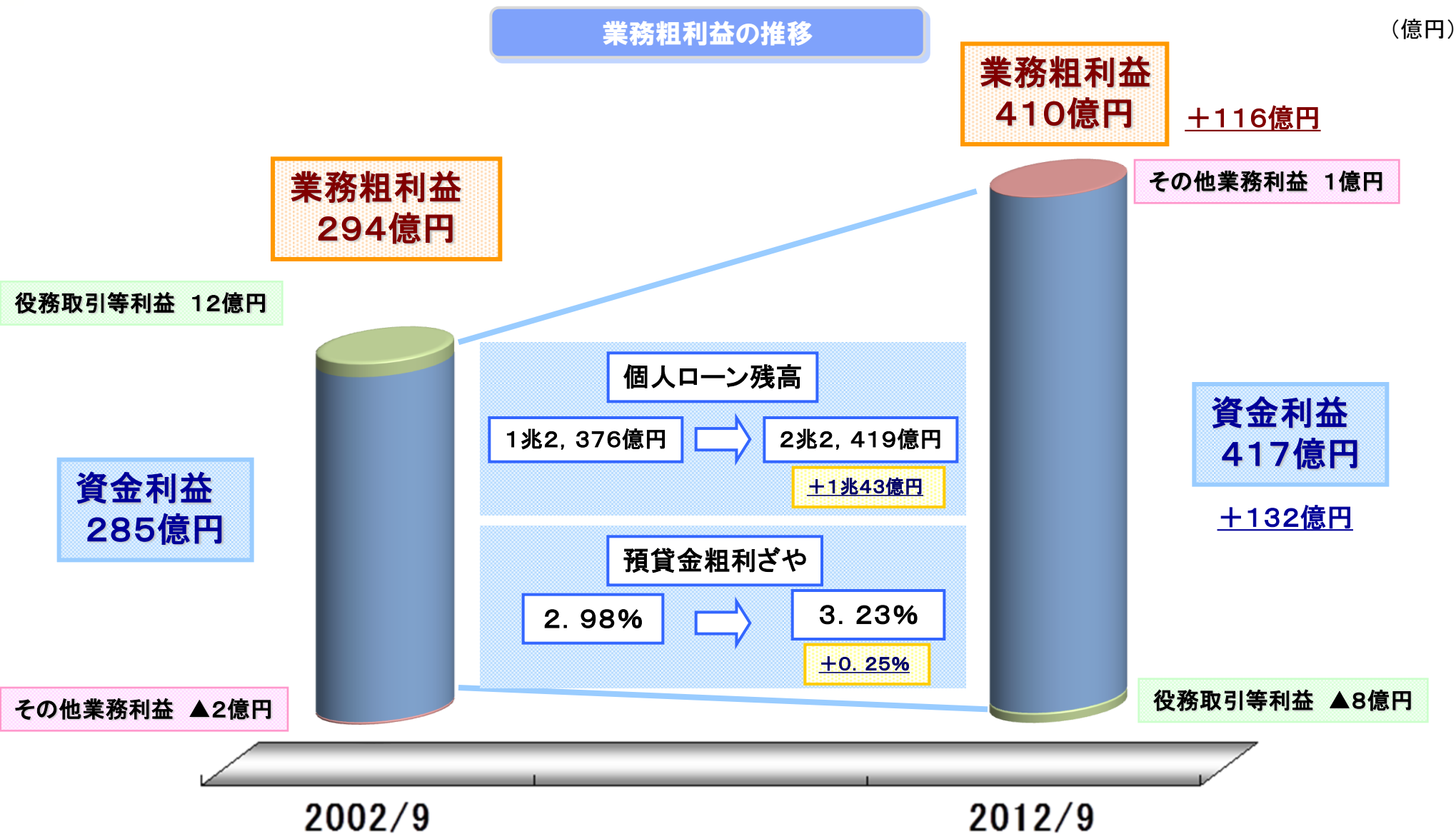
円貨預貸金利益と業務粗利益



コア業務純益と中間純利益

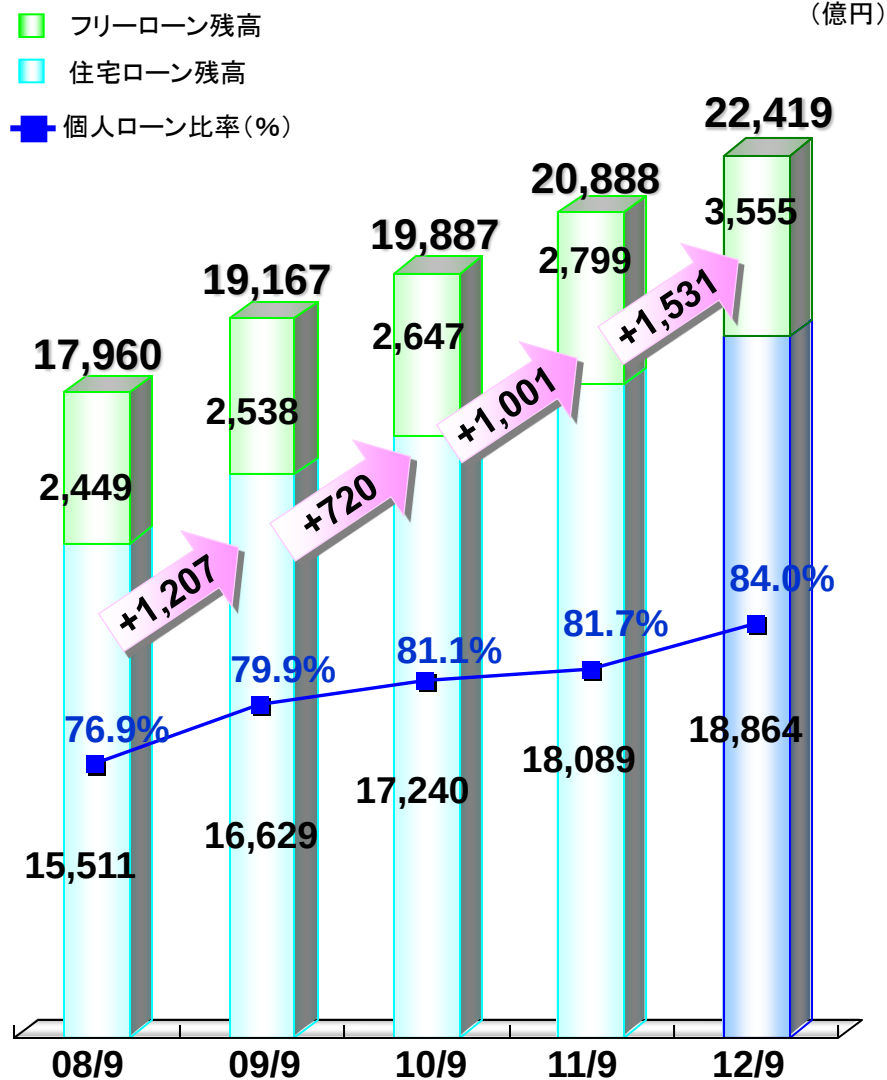


■収益基盤の成長 (10年対比)

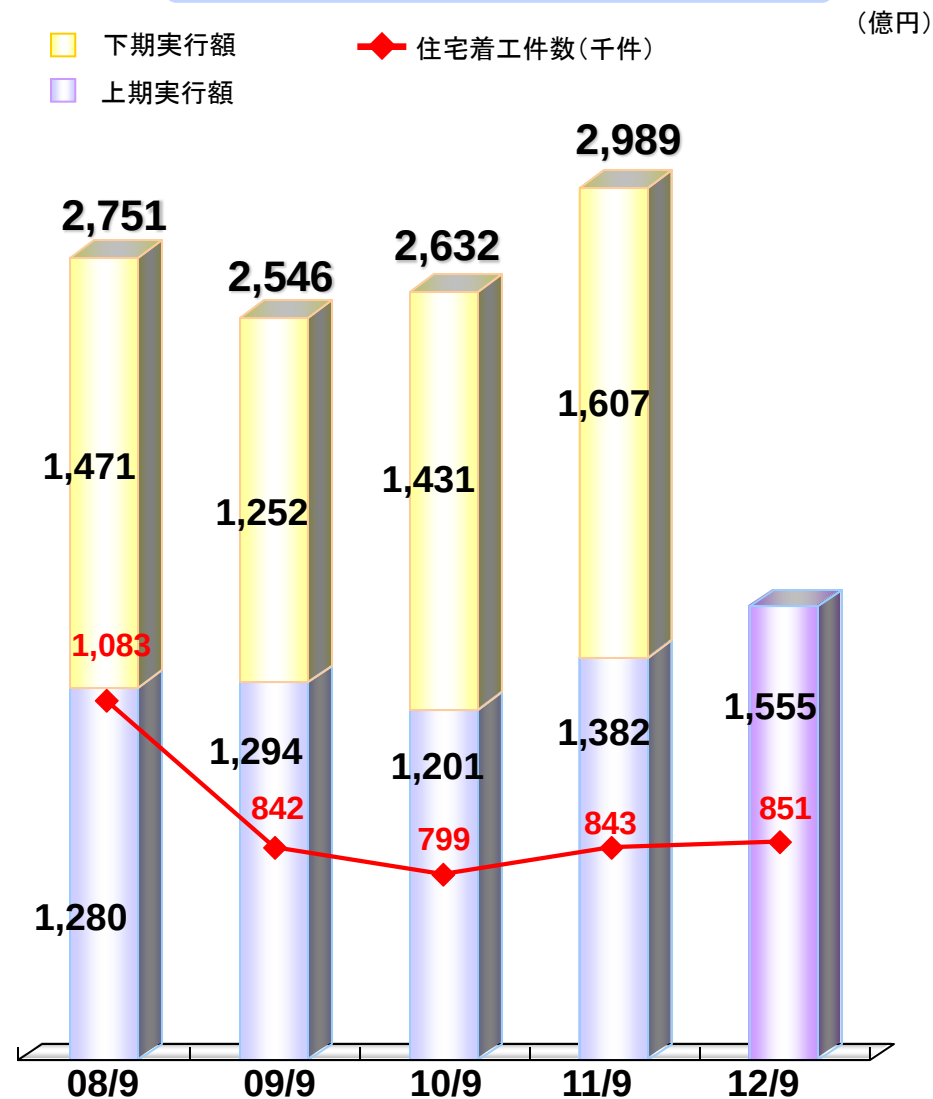


■ 個人ローンの状況 ①

個人ローン残高・個人ローン比率

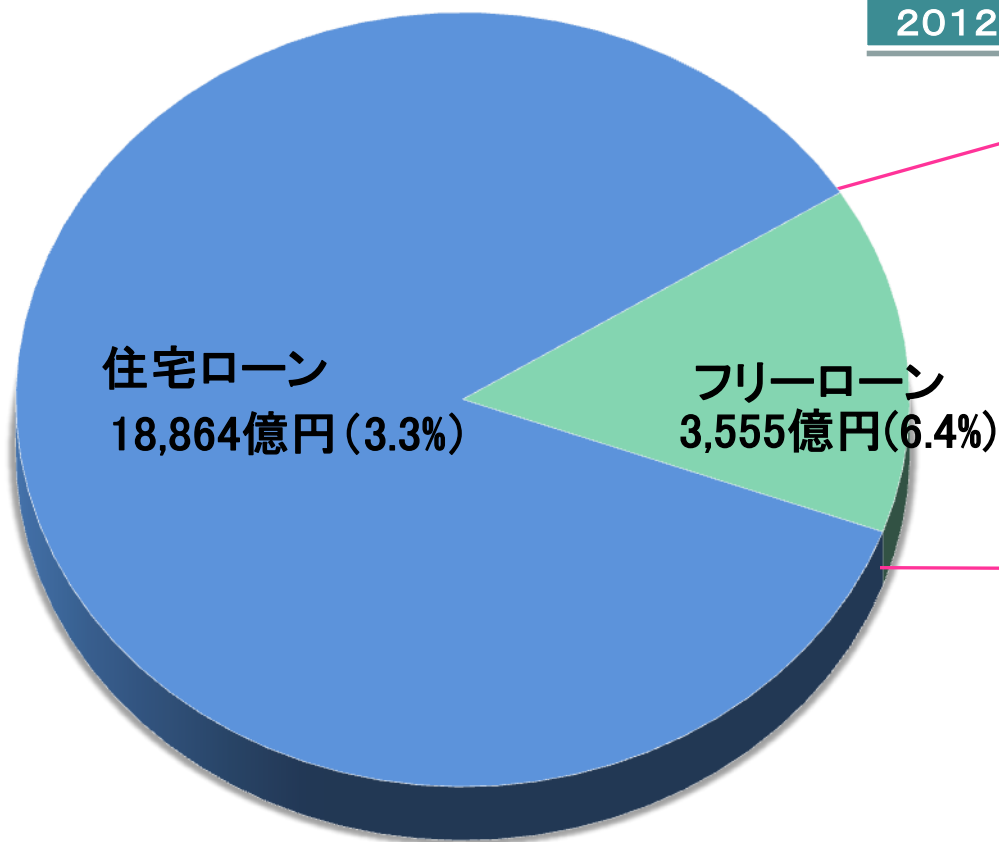


個人ローン実行額



■ 個人ローンの状況 ②

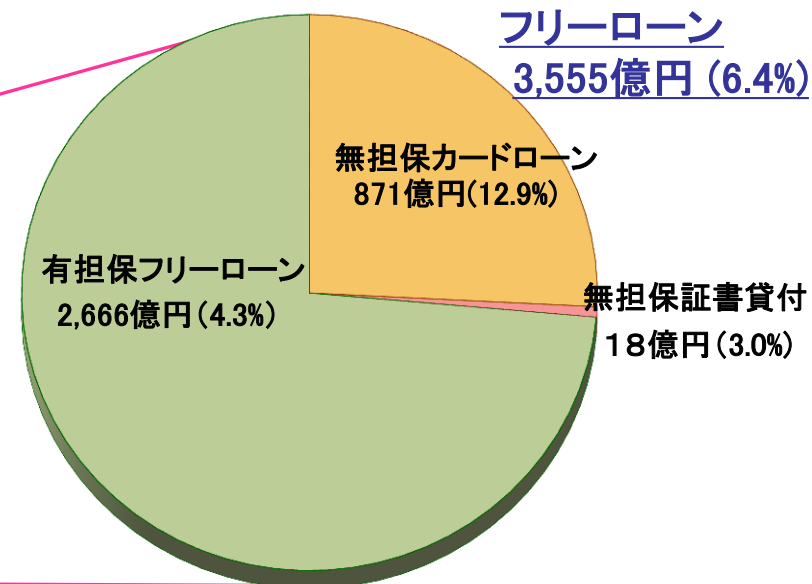
個人ローン残高内訳・平均レート



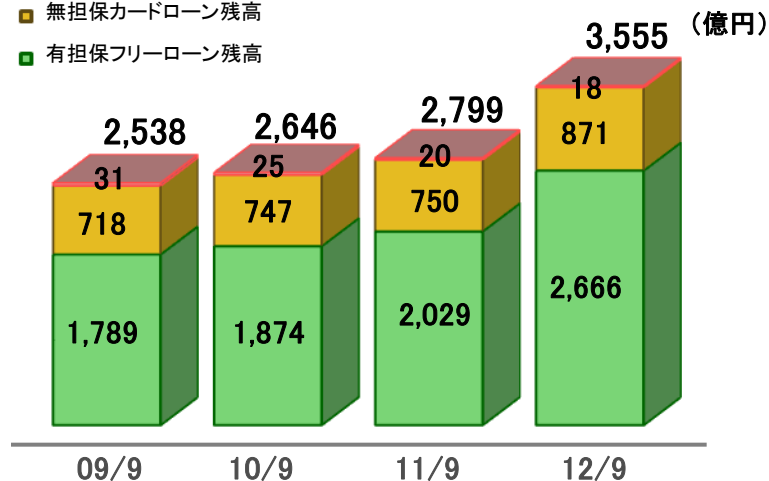
個人ローン
22,419 億円 (3.8%)

(注) ()内は平均レート

フリーローン残高内訳・平均レート

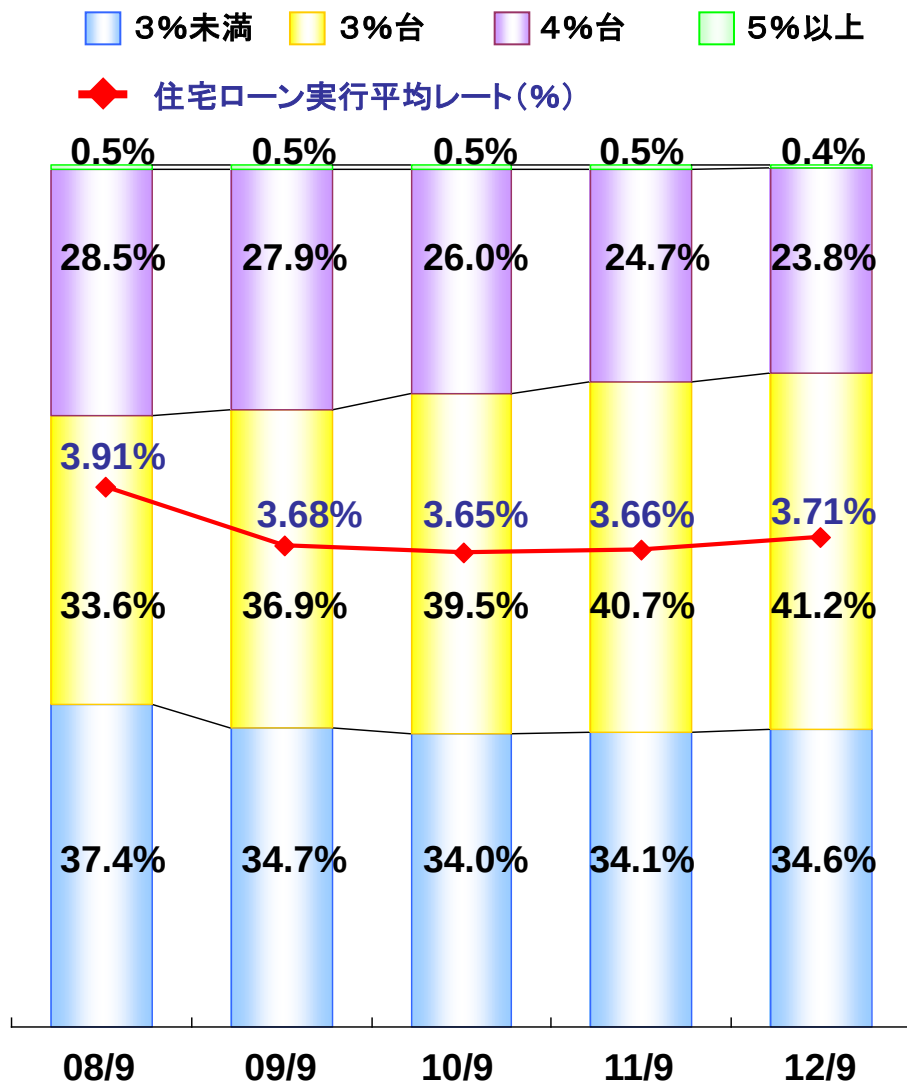


- 無担保証書貸付残高
- 無担保カードローン残高
- 有担保フリーローン残高

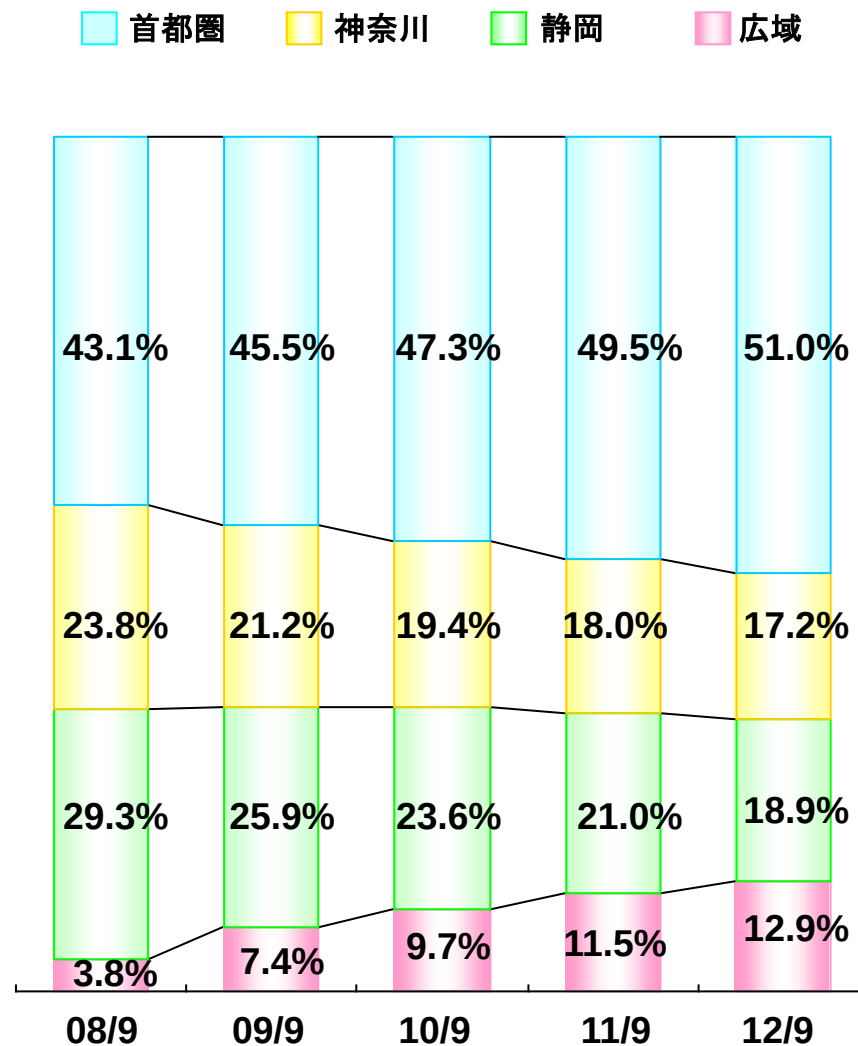


■ 住宅ローンの状況

住宅ローン実行レート分布(累計)



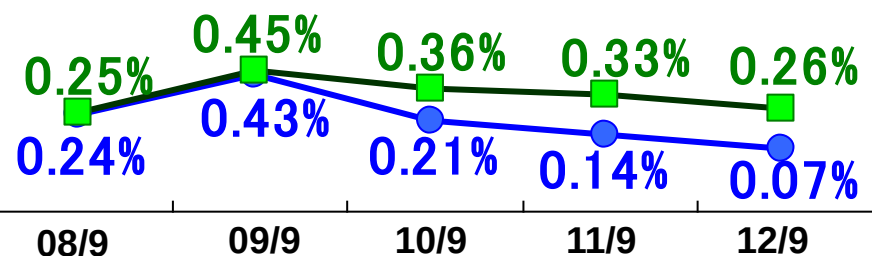
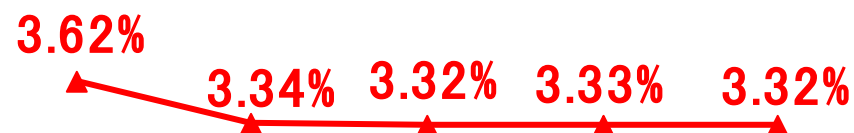
住宅ローン地域別残高比率



■ 個人ローンの延滞率・毀損率の推移

住宅ローン

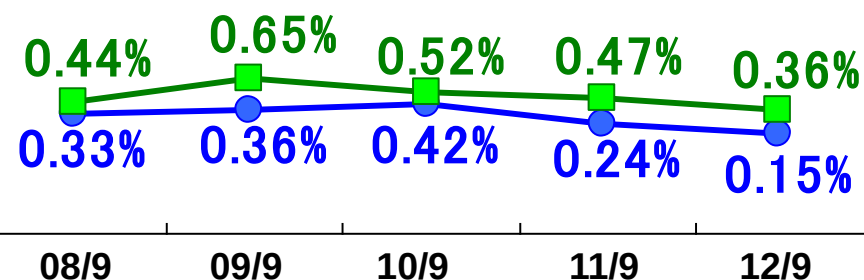
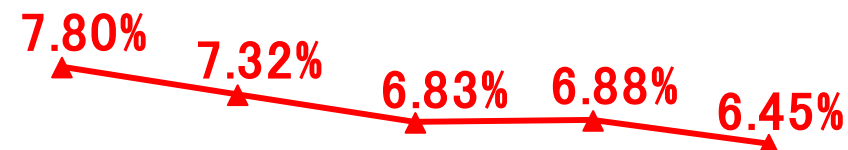
▲ 利回り ● 延滞率 ■ 毀損率



※延滞率＝3ヶ月以上延滞債権 ÷ ローン残高

フリーローン

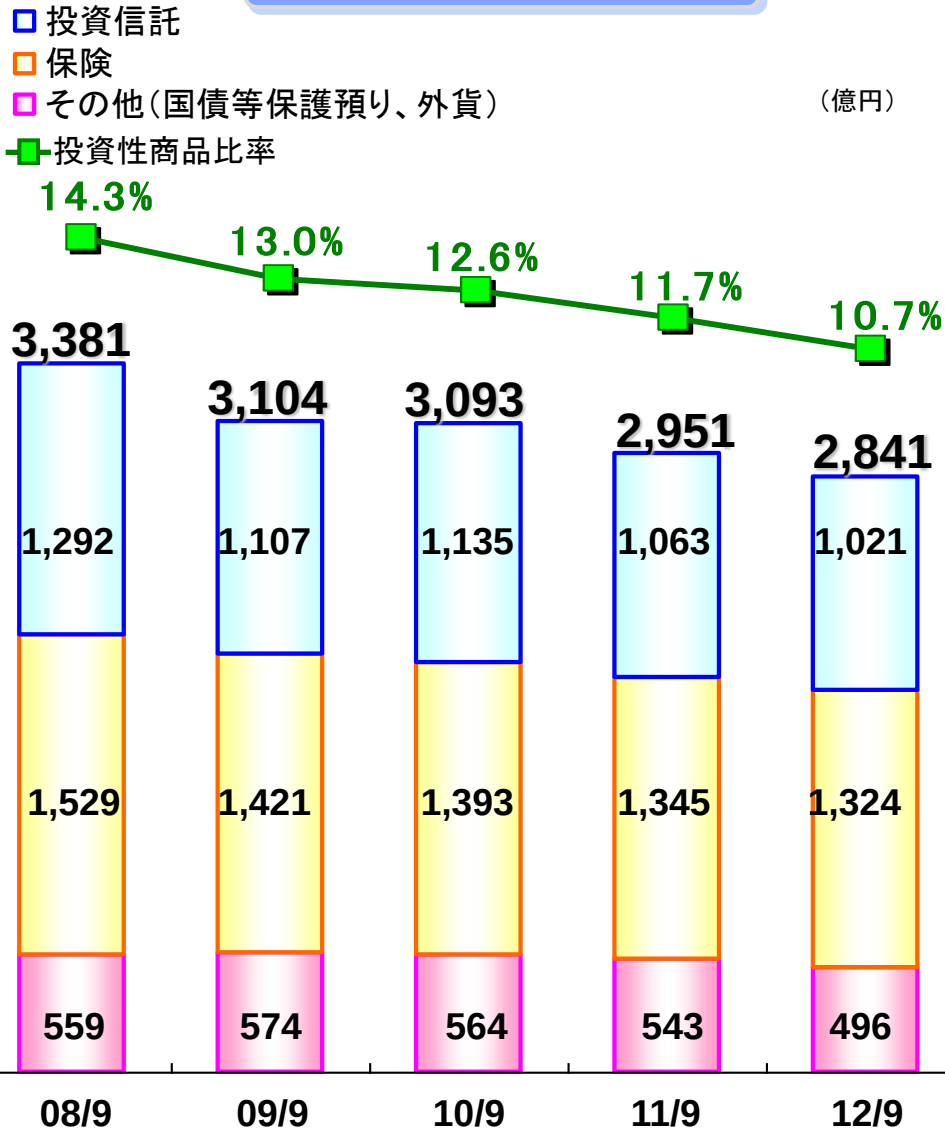
▲ 利回り ● 延滞率 ■ 毀損率



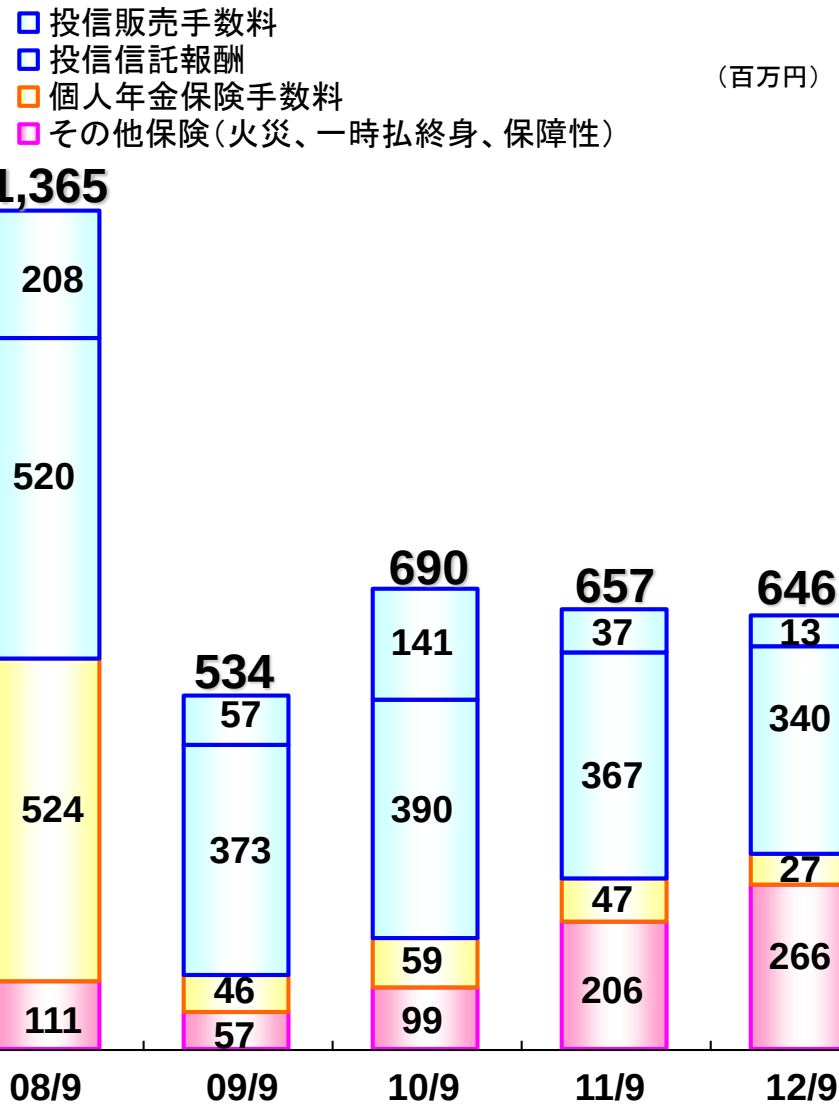
※毀損率＝デフォルト率 × (1 - 回収率)

■ 投資性商品<残高・手数料>推移(個人)

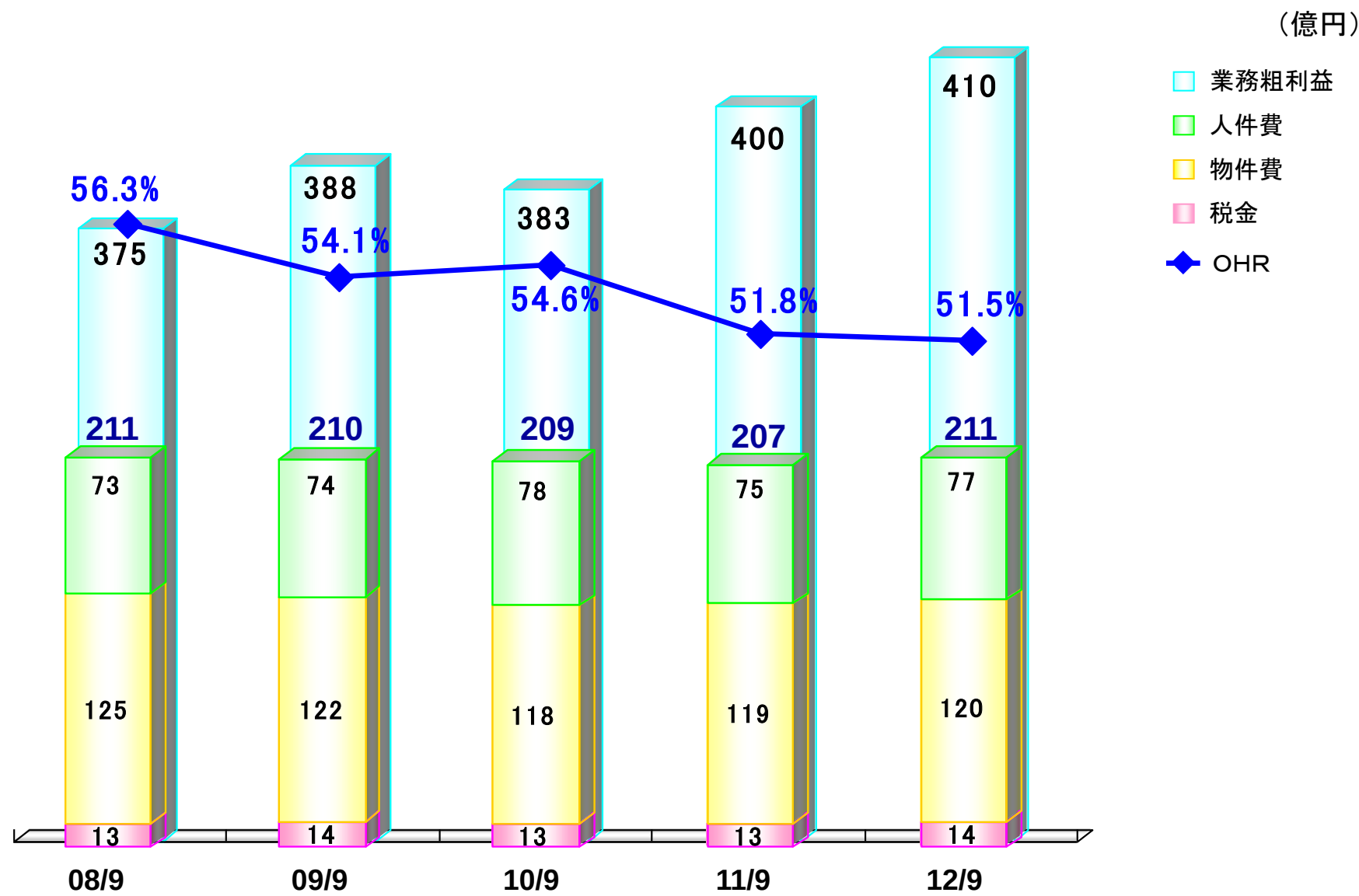
投資性商品残高内訳(個人)



投信・保険手数料収入



■ 経費・OHRの推移



金融再生法開示債権詳細

(億円)

開示区分	12年9月期 与信残高	構成比	法人・個人別 与信残高		構成比	担保・ 保証合計	担保	保証	保全率	引当	引当率	カバー率
破産更生債権 及びこれらに 準ずる債権	127	0.47%	個人	95	0.42%	57	48	9	60.52%	38	100%	100%
			法人	32	0.73%	25	15	10	80.91%	7	100%	100%
危険債権	220	0.82%	個人	47	0.21%	28	21	7	59.69%	13	72.61%	88.96%
			法人	173	3.98%	144	51	93	83.67%	20	72.67%	95.53%
要管理債権	204	0.76%	個人	93	0.41%	62	61	1	66.88%	8	26.53%	75.67%
			法人	111	2.56%	40	40	0	36.77%	19	27.05%	53.88%
合 計	551	2.05%	個人	235	1.04%	148	130	18	62.86%	59	68.19%	88.18%
			法人	316	7.27%	211	108	103	66.88%	45	43.60%	81.32%
正常債権	26,299	97.95%	個人	22,278	98.96%							
			法人	4,021	92.73%							
総与信合計	26,850	100%	個人	22,513	100%							
			法人	4,337	100%							

カバー率合計

84.26%

保全率

: 担保・保証による保全率

引当率

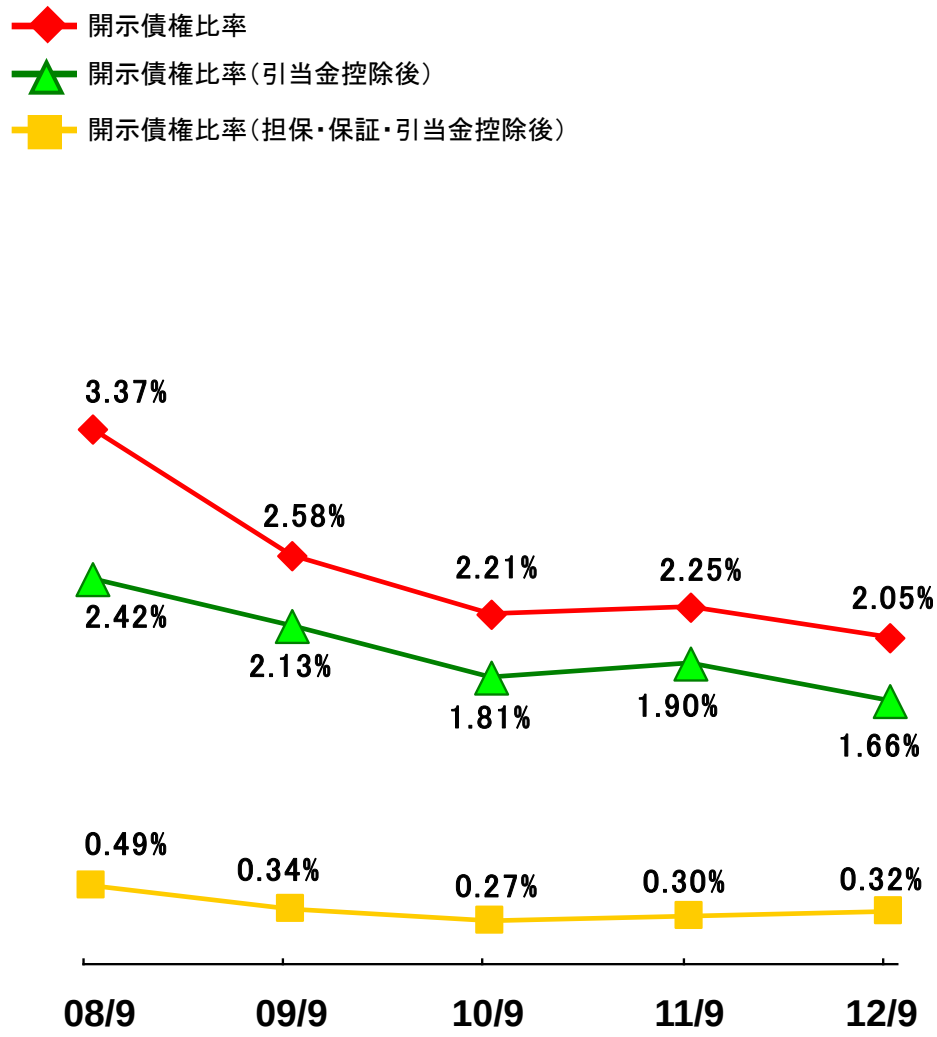
: 無担保部分への引当率

カバー率

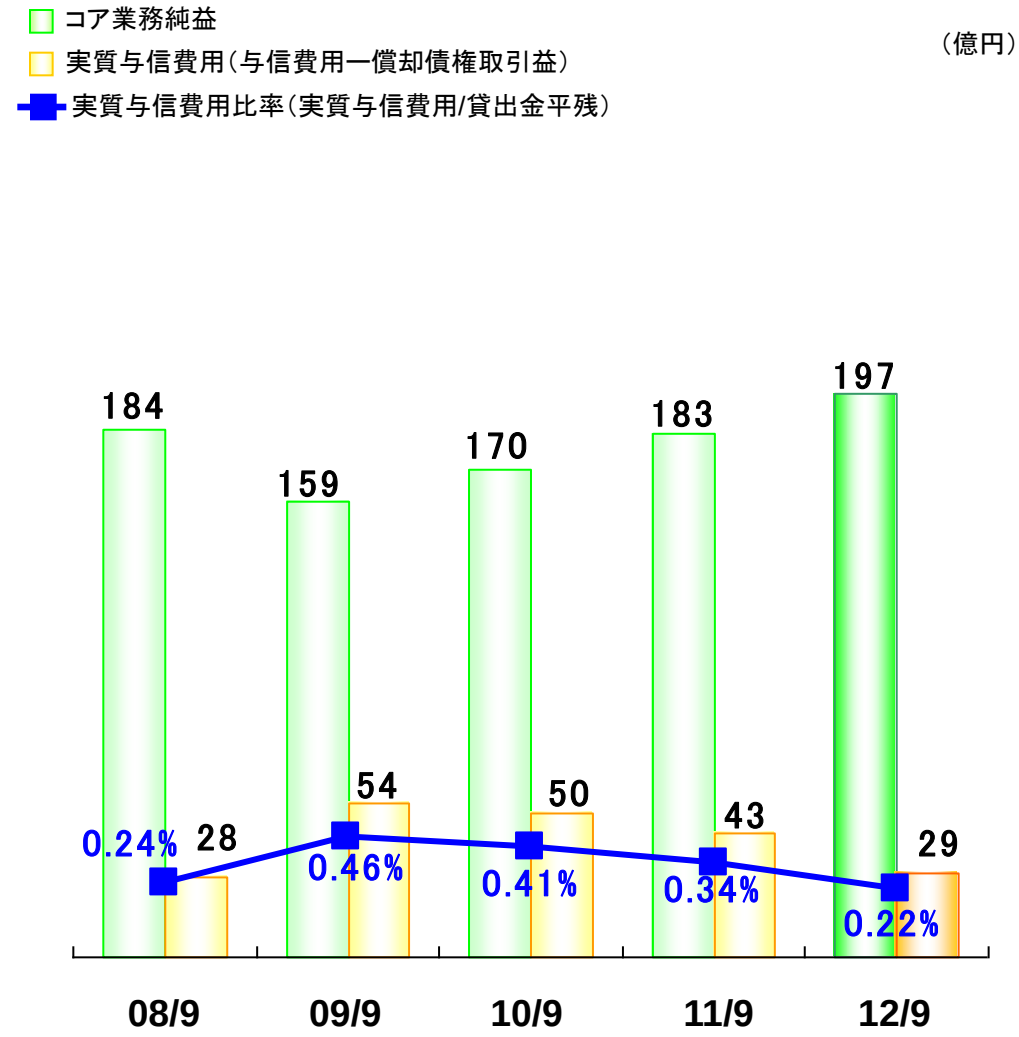
: 担保・保証・引当を考慮したカバー率

■ 開示債権比率と実質与信費用の推移

開示債権比率



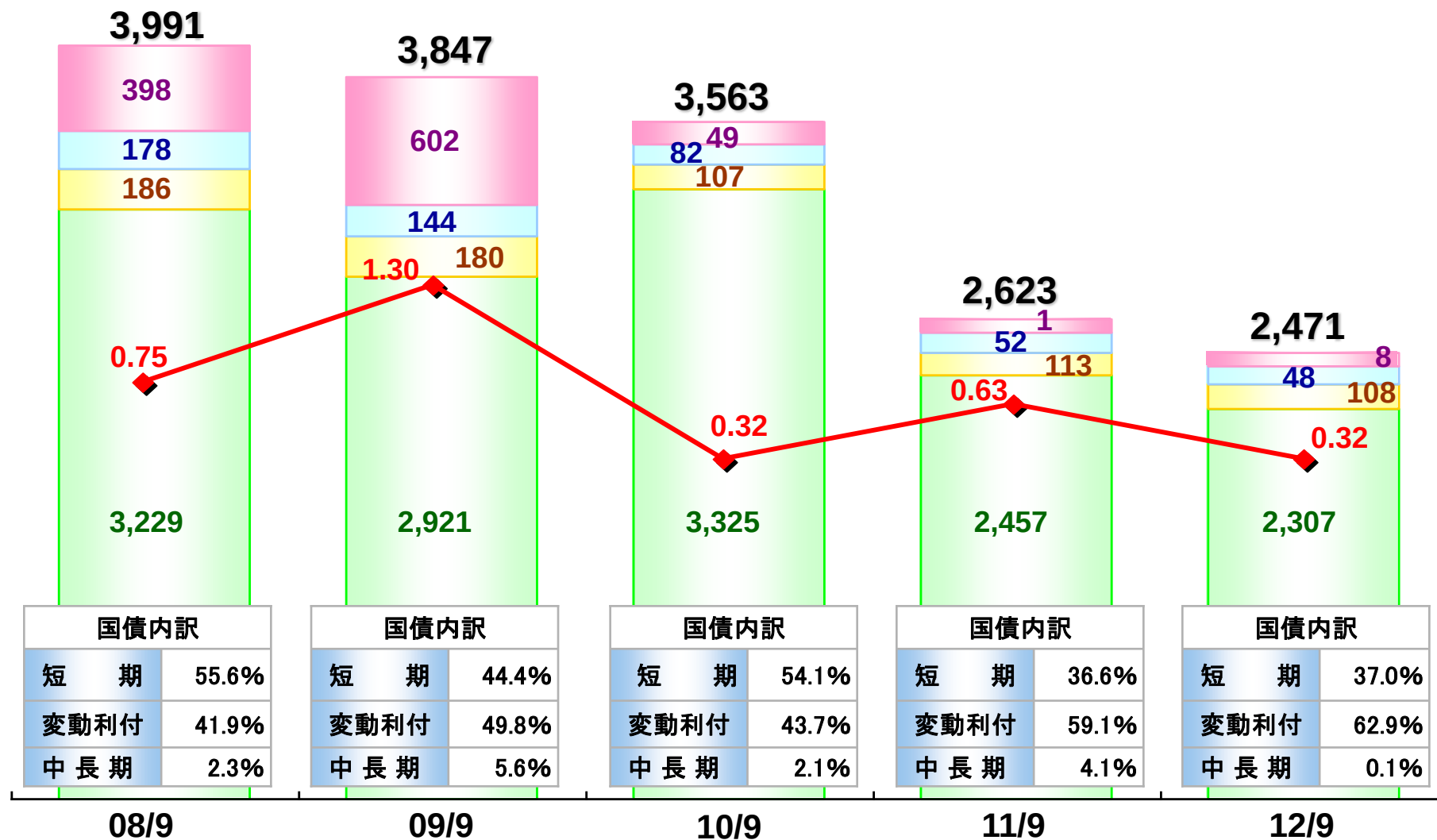
実質与信費用



■ 債券ポートフォリオの推移

平均残存期間(年) 国債 外国債券 社債 地方債

(億円)



■ リスク量の状況

統合リスク管理

2012年3月末

Tier I

(億円)

バッファー1,266

1. 信頼水準 99% (共通)
2. 保有期間 (営業日)
 - ・信用リスク 240日
 - ・預貸金、債券等 金利・価格変動リスク 60日 (トレーディング勘定は 10日)
 - ・株式 価格変動リスク 120日
3. オペレーショナルリスク
基礎的手法

1,903

637

225

277

135

463

151

186

126

信用リスク

市場リスク

オペレーショナル
リスク

2012上期
配賦原資

2012上期
配賦資本

2012/9月末
リスク量

アウトライヤー比率

2012年9月末

金利ショック
方式

±200bp

金利リスク量

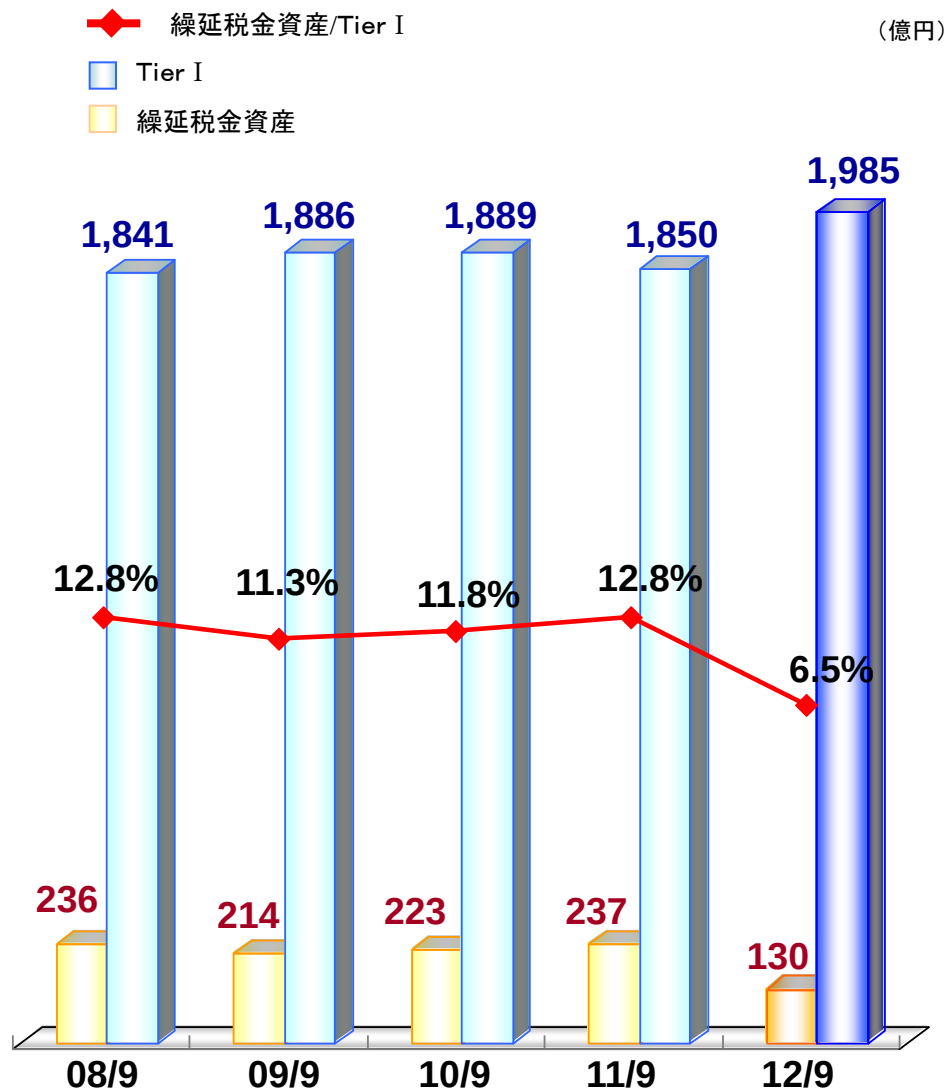
67億円

アウトライヤー
比率

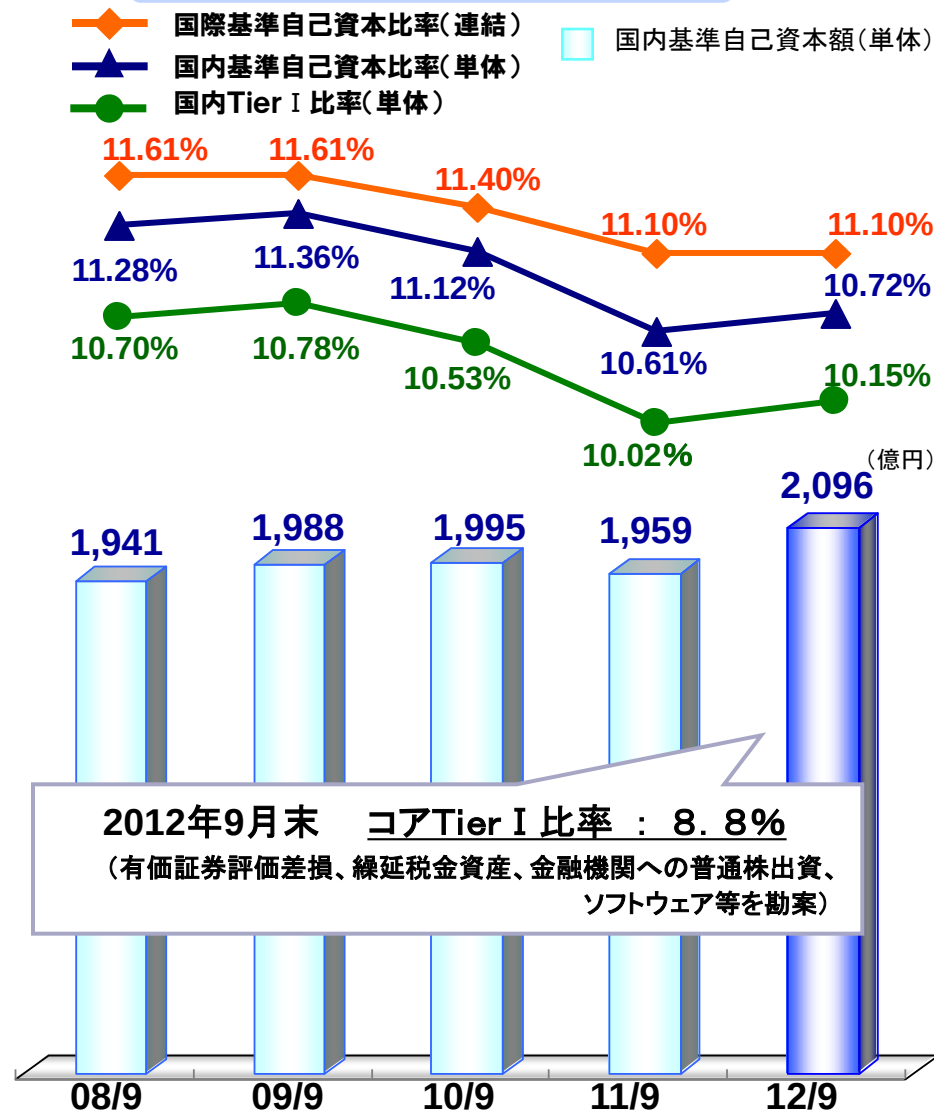
3.1%

■ 自己資本の推移

Tier I 資本・繰延税金資産



自己資本比率



■ 2012年度中間期実績及び通期見通し

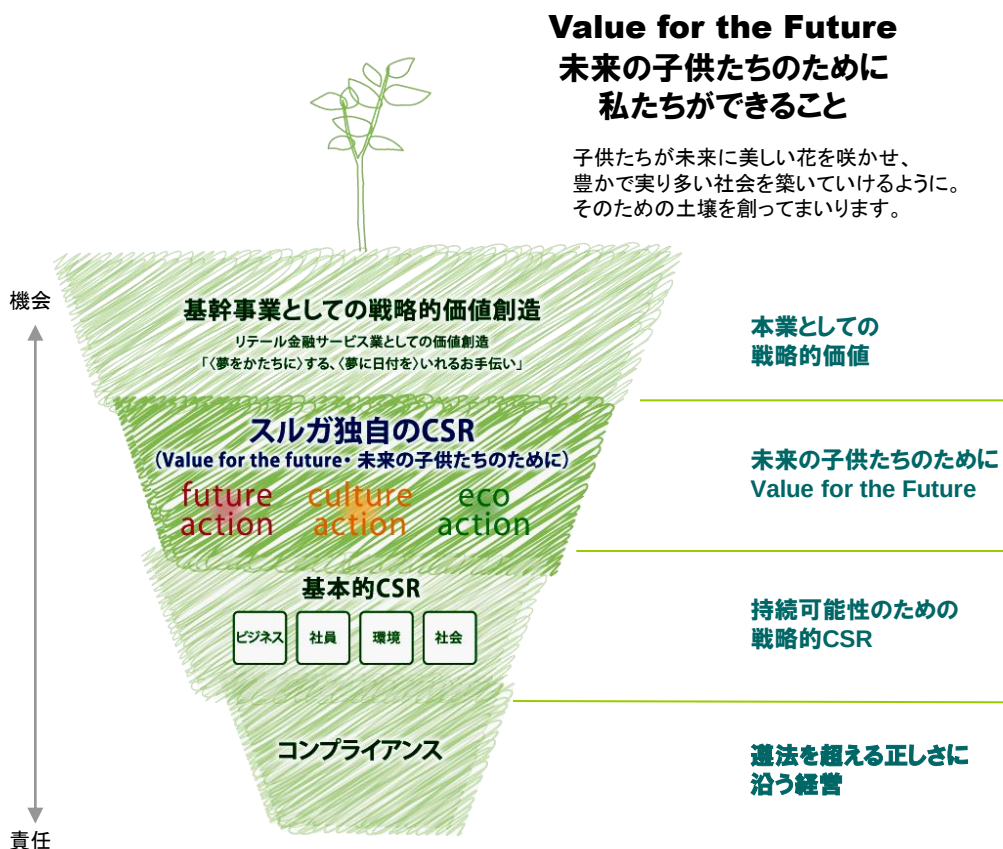
(億円)

	2011年度 中間期 実績 (A)	2012年度 中間期 実績 (B)	実績比 (B-A)	2012年度 見通し
コア業務純益	183	197	+14	385
経常利益	132	161	+29	280
当期純利益	75	99	+24	170
実質与信費用	43	29	△14	75
一株あたり配当金(円)	6.5	6.5	0	13

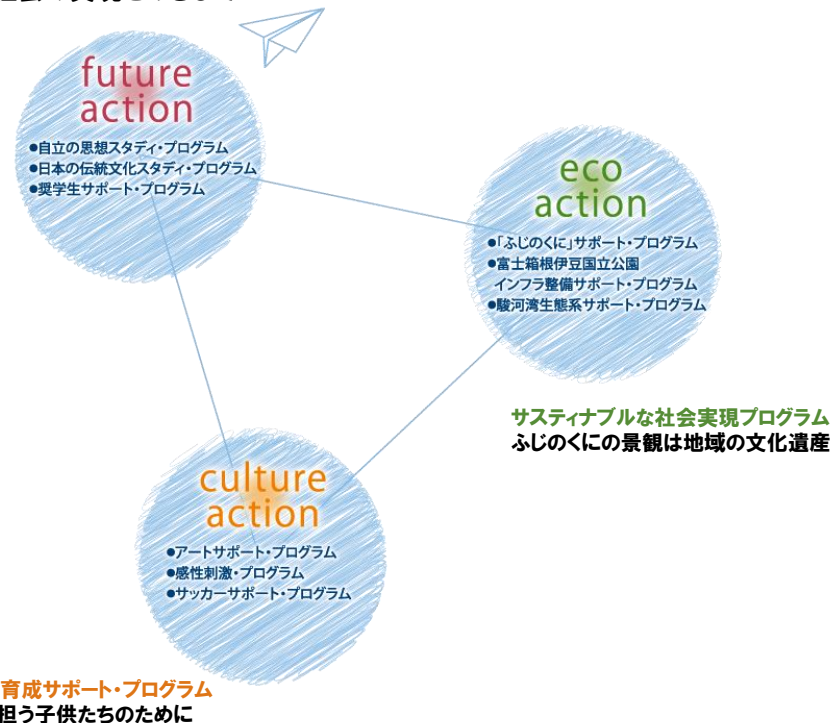
■ スルガの考える未来創造型CSR

変化し続ける時代の声にお応えしながら、持続可能な社会の実現に向けて、
未来を担う子供たちが健やかに成長するための豊かな環境づくり、
「価値ある社会」の創造に向けて、たゆみない挑戦を続けてまいります

スルガのCSRのフレームイメージ

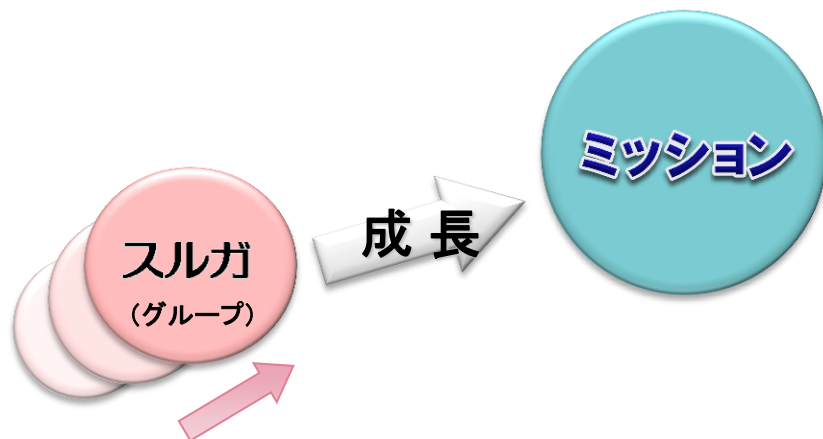


未来創造サポート・プログラム 自助自立社会の実現をめざして



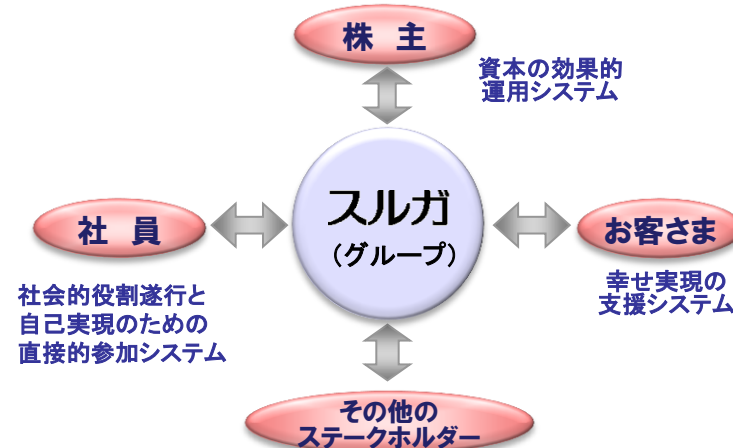
■ 経営理念における成長のあり方

“使命型企业”としての成長



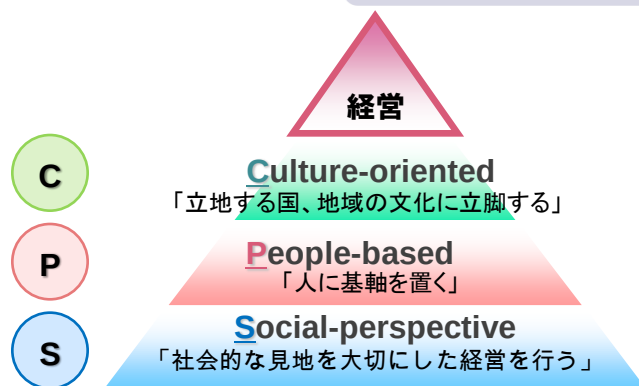
「ライフ アンド ビジネス コンシェルジュとして
〈夢をかたちに〉する、〈夢に日付を〉いれるお手伝い」をするという
ミッションの実現性の向上を成長と定義する

“価値交換システム”としての成長



各ステークホルダーとの価値交換性の向上を
成長と定義する

“C・P・S”を原点とした成長



文化を尊重し、その文化を強みとして
活かしていくことにスルガの成長がある

企業の理論ではなく、人の論理を中心に
据えた経営によって成長を実現する

社会的公器としてのあり方を絶えず志向し、
社会規範の上をいく状態を実現する

SURUGA bank

Thank you.

<本件に関する照会先>

経営管理部 IR

[TEL] 03-3279-5536

[メールアドレス] ir.koho@surugabank.co.jp

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。